勇者が死んだ!

4

THE LEGENDARY HERO IS DEAD!

URA SUNDAY COMICS

スバルイチ

SUBARUICHI

村人の[illegible]
[illegible]った[illegible]
[illegible]が落ちた[illegible]

Go to next page

Go to next page

スバルイチ

THE LEGENDARY HERO IS DEAD!
SUBARUICHI

勇者が死んだ！

村人の俺が
掘った落とし穴に
勇者が落ちた結果。

4

勇者が死んだ!
▶もくじ

第34話　復讐 ―― 3
第35話　敵 ―― 23
第36話　24時間 ―― 47
第37話　魔術の才能 ―― 65
第38話　ハンティングゲーム ―― 79
第39話　霧 ―― 93
第40話　全滅 ―― 111
第41話　師匠 ―― 127
第42話　魔導技師の工房 ―― 143
第43話　あの時と同じなら ―― 161
第44話　タイムスリップ ―― 179

第34話 ▶ 復讐

アンリ！どういうことだよ！

聖剣って勇者の身体でしか使えないんだろ!?

う…

うむ…

もし、トウカ殿自身でも使えるのなら、最初から魔術など使わん。

選ばれたんです。

え？

トウカさんは本当に勇者様になったんですよ！

俺が…

勇者に…？

安心しました。

こ…

これでわたくしも王女としての義務が果たせます。

さあ…結婚しましょう！

今すぐにッ!!

アホか！今すぐ結婚なんてできるわけねーだろ！

これは義務なんです！それともトウカさんも勇者様と同じくわたくしのことを…

い、いやそういうわけじゃ…

ほ…ほら…

真の勇者になった以上もっと先に果たすべき使命があるだろ…！

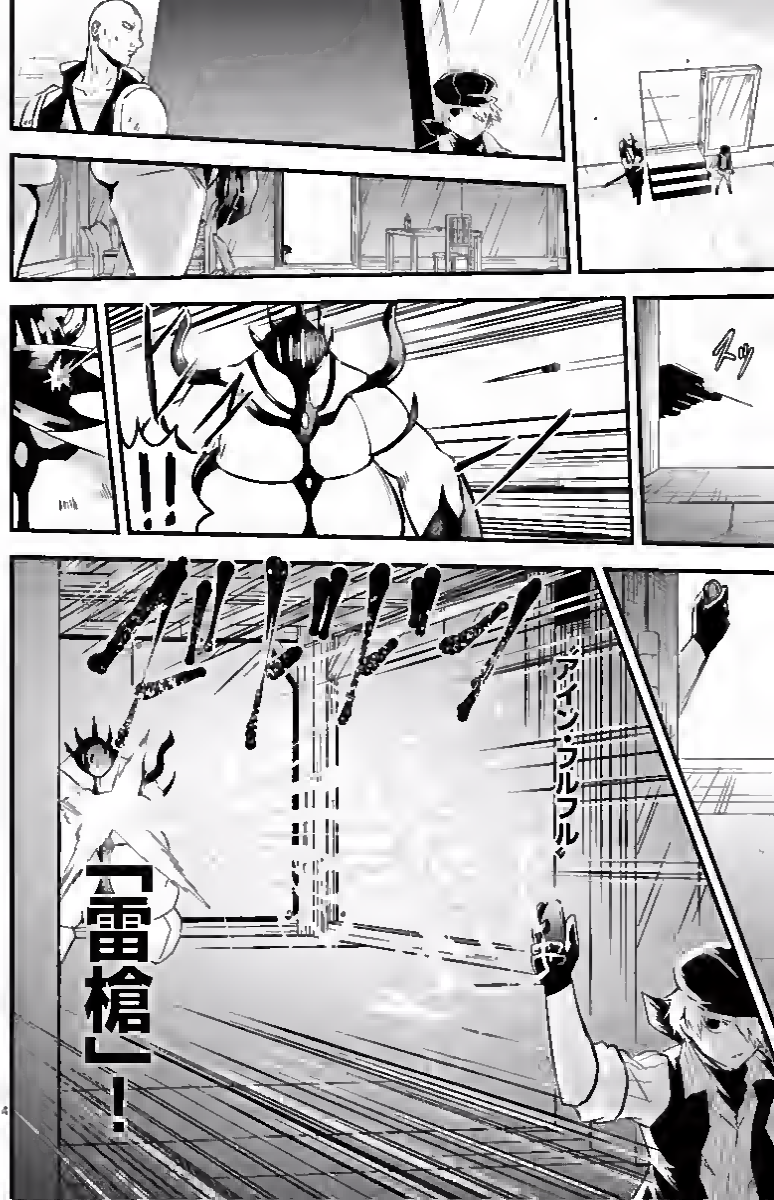
世界中の美少女のフトモモを異能する使命を果たすまでは、身を固めるわけにはいかないんだ！

そもそも今は…

果たすべき使命…

ああ、そうだー

戦闘中だ！
クソ！
こいつまだ動けるのかよ！
魔術の効果で限界まで暴走させられているのだろう。
ウオオオオ!!
ならば…
遠隔屍術!!
そうか！悪魔にも屍術が！
とどめを！


スッ
!!
〝アイン・フルフル〟
「雷槍」!

この魔術、本来は広範囲に雷を落とす魔術なんすけど、

狙ったとこに当てられないのが難点でしてね。

でも——この魔力を込めた針を使えば、

落雷する位置をコントロールできるんすよ。

ウィーン

これで…

とどめ…！

この中級悪魔…床の穴を守るように立っていた。
最初、勇者を攻撃した時のあの動揺――
もしかして中級悪魔達を盾に自分は逃げたんじゃないっすか？
上級悪魔がいないな…
とにかく下りて探してみましょ…
ああああああッ!!
コリン!!

クソ！
ふざけるな！
クソ！
おい！
何があった！
…って、
なんだこの数!!!
うあああ！
こっちからも！
早く出ろ！
閉めるぞ！
ガタン

ただ暴走させるだけでなく、屍術のように操作できるということですか!?
クソ!
真下に、大量に集まってやがる…!
いや、
〝音〟だ。
あれを見ろ。
大砲の玉が落ちた音にも反応したんだろうよ。
人だかりができてる。
そんなこと、今さらわかったところでどうでもいいんすよ!
早く上級悪魔を!
早く見つけて殺さないと!
見つけたぞ!
!!

ドウシテ！
ワラワの力が効かナイ！
それにネクロマンサーまで！
ッ！
何、外してんすか！
クソ…
外した！
化け物になんかなってたまるか！

逃がすわけにはいかないんすよ!!

おいテメ！人の聖剣を滑り台代わりに使ってんじゃねー！

っ、次は私の番だな！

……

やった！

殺す！

あ

あんまり俺の女をいじめてくれんなよ。

泣きそうになっちまうからよ。

き、聞きましたか？今の悲鳴…

ああああああ!!!

悲鳴!?

やはり
あの上級悪魔が
逃げたのは、
罠だったんですよ！

パッカ

パッカ

おい、町長…

なんで
馬なんか…

馬には
感染してない
みたいでしてね！

助かりましたよ…

まさか…

町長のくせに
逃げる気じゃ……！

ははは！
そのとーりです！

おいッ！
待てよ！

おい!!

コリン…ッ!!

し…
しっかりしろ!

急いで止血を!

クソ!

あの町長…!

!!

なんだ…

何があった…!

…!

あいつは…!

白髪に…
赤眼…!
屍術師(ネクロマンサー)…!?

貴公は…
ディエゴ殿…
知り合いなのか…？

アンリ！
それに勇者まで！
半月ぶりだなあ！
また会えて嬉しいぜ。
ククク…
泣けてくるぜ。

誰だよテメー。
俺はテメーのことなんか知らねーぞ。

ああ？
そういやお前もいたか。
悲しいぜ
あの王都での楽しい一夜を忘れちまうとはよ。

え…
ちょっと待て…
俺の知らねーうちに、ユナはこんな男と一夜を…
そうか…
あの夜職った上級悪魔の中身はディエゴ殿だったのか。

なるほど…俺が倒したヤツか…

中身はこんなヤツだったのか。

おい、そこの女。テメーに負けた憐えはないんだけどなァ。

いや、

あ、いやそれは…

そうか…

!?

気づいて…！

お前が勇者の中身か。

ああ、勇者は死んだんだろ？

骨の姿で動けるのは屍術しかねェからな。

しかし誰だ？

誰が、勇者を殺した。

魔王すらも倒した勇者を殺したヤツがいるとは、にわかには信じがたいんだが……。

どーん

トウカ殿だ。

ポン

トウカ殿が殺した。

ちょっと待て！

だからあれは事故で……！

やはりお前か。確かに圧倒的な強さだった。

だが、今そいつの魔力レベルは4しかねぇんだけどなァ。

魔力視…！

ま、まあ俺クラスになると魔力レベル4でもあの強さになっちゃうっていうか…。
いや、トウカ殿は薬で魔力レベルを上げてるだけ。
本当の魔力レベルは1だ！
アンリお前！なにバラしてんだよー
ヒャハハハー魔力レベル1ってー
虫や魚じゃねェんだしよ！
残念ながらトウカ殿の凄さは魔力レベルでは測れないからな。
ククク！何を言い出すと思えば！
それでェ!?そんなヤツを勇者に祭り上げて何をするつもりだァ？
目的…
3年前の復讐か…
殺したってことは俺達の目的に協力してくれるってことかァ？

ああ、

復讐だ。

地獄の門の解放から4か月――

もうすぐだ――

あと少しで この地にも 魔の瘴気が満ちる

その時こそ 俺達の悲願を 果たす時――

復讐の石のもとに 俺達は集った。

そうだ、

人間共に死を――

この世界を奴らの屍(しかばね)で満たそう！

復讐…

そうだ。

第35話▶敵

……

他にも生き残った者達はいるのか？

ああ、アンリが生きていることを知ったら泣いて喜ぶぜぇ？

みんなで仲良く復讐しようぜ！

悪いが、それはできない。

勇者殿との約束があるからな。

世界を救うという約束が。

は？

なんだそりゃ？アンリ、マジで言ってんのか？

ま、まあまあ、

復讐なんて物騒なこと考えるのはやめようぜ。

あ？

3年前、大勢の屍術師が悪魔扱いされ殺されたっつーのは聞いた。

でも、もう一度話し合えばわかり合えるんじゃねーのか？

なんなら俺が勇者の姿で国王を説得するのを協力してやるからよ。

ええ、わたくしも王女として協力いたします。

話し合いイ？

ははー…ヒャハハハハ!!

下らねー冗談はよせよ!!

お前らが聞く耳持ってりゃ3年前の殺戮は起きてなかった！

そうだろう…!?

話し合いを拒否したのはお前らこの世界の人間なんだよ！

いや、

確かに話し合いは大事だ。

話し合った結果、

こうやって悪魔達と協力関係が結べたわけだしよ。

ああ、ディエゴ様…

協力関係!?

正気か…!?

地獄での日々を忘れたのか!?

悪魔こそ私達の敵だろう!

悪いなアンリ。

俺達の敵は――

人間だ。

オオ

なんだ、あれは…
目玉…!?
千里眼の魔晶石。
アイン・アンド・ロマリウス
魔術を発動するためには、対象の位置を把握する必要があってな。
この魔術なら、どんなに離れた対象でも正確に位置を把握できる。

さあ、来るぜェ！
数百の暴徒の群れが!!

元は善良な町の市民！
お前らに殺せるかァ!?
ヒャハハハハッ!!

そんだけ操ってりゃ、どうせすぐ魔力切れになるだろ…!!

それまで持ちこたえりゃ…!!

違う…

違うのだトウカ殿…!

屍術師の魔力量は普通の人間とは違うのだ…

普通の人間と違う…?

確かにアンリの魔力レベルは高いよな…

グッ グッ

私は屍術師の中では落ちこぼれだった。

!?

なんだ…

あの魔力量…

人間の限界は魔力レベル10。

だが、地獄の環境に適応し、「魔」に順応した肉体を持つ屍術師の魔力はそれをはるかに超える。

ディエゴ殿の魔力レベルは…

40だ――

はあああ!?
よ…40!?
アンリの4倍じゃねーか…!!
…屍術以外にもどんな魔術を持ってるのかすらわかってねーのに…
か…勝てる気がしねェ!
ゴホッ…
それなら…
上級悪魔をやればいいんすよ…
〝アイン・フルフル〟!
迂闊でしたね…
針が刺さったまんまっすよ…!

アイン・ヴァムピール。

「血の盾」！

ディエゴ様！

ありがとうございます……！

何へマしてやがる！クソアマァッ！

せっかく面白くなるとこなのによォ！

ああ…申し訳ありません……！

テメェはこの場に不要だ。

終わるまですっこんでろ。

ドドドド
トウカ殿！
ドドドド
ドドドドドド
来るぞ…!!
ドドドド
レベル4の聖剣…！
どれくらいの強度か
わかんねえか

形状変化〝壁〟

オオオオオオ

ヒャハハハ！なるほど！

まあ、そうするわなァ！

んじゃまァ、

厄介なお前から始末してくっとすっかァ！

やっぱり俺を狙ってくるか…

クソ…どうする……

ココ

ちょ…ちょっと待った！

なぁ疑問に感じないか？

あ？

なぜ本物の勇者でもない俺が聖剣を使えてると思う？

確かに…
勇者は死んだ…
屍術で勇者の死体に入っているなら、まだわかるが…
なんだ…？
お前は何者なんだ…？
フ…
なんで聖剣使えるかなんて、俺も知らねーってのの…
だが…
食いついた…！

いやー、なんだっけ？
復讐がしたいんだっけか？
悪魔と手を組んで目的が果たせる気になってるのは結構だが、
3年前とは状況が大きく違うことを念頭に入れておくべきだったな。
この俺の存在をな。
ビビ
は？
アンリが言っていただろ…？
俺の強さは魔力レベルでは測れないと。
勇者を殺し、勇者でもないのに聖剣を操れる。
カイルもリーランドも俺の力の前にあっさりと敗北した。
それはなぜか…

答えは簡単だ。
それは俺が魔力を超える最強の力――
「ムチフト力」の使い手だからさ。

ムチフト力…
むっちり…フトモモ…
ガーン
トウカさん…嘘つくにしてももっとまともなネーミングを！
何…!?ムチフト力だと…
騙されてる…！
やはり…そうだったのか。
そんな気がしていたんだ。
アンリさんまで…！

まさかトウカさん…
こんな嘘でどうにかするつもりじゃ…
こんなの…ただの時間稼ぎにしか…
どうする？
このままやっても俺の勝利は確実だ。
だが、今すぐ町の住民を元に戻せば、命は見逃してやるぜ。
ムチフト力の使い手は慈悲深いからな。

確かに…

お前の存在は得体が知れねぇ。

ここで何も考えず戦いを挑むのは賢い選択じゃねェな。

だが…

退くかどうか決めるのは、その壁が壊れてからでも遅くはねェよなァ。

ククク…ヒャハハハハ！魔力レベルじゃ測れない強さァ？

馬鹿馬鹿しい！魔力がなけりゃ、その聖剣すら満足に操れねェってのによ!!

トウカさん！ソーマの雫で魔力レベルを上げれば！

憑依した時ので最後だ！残りは魔導車に置いてきた！

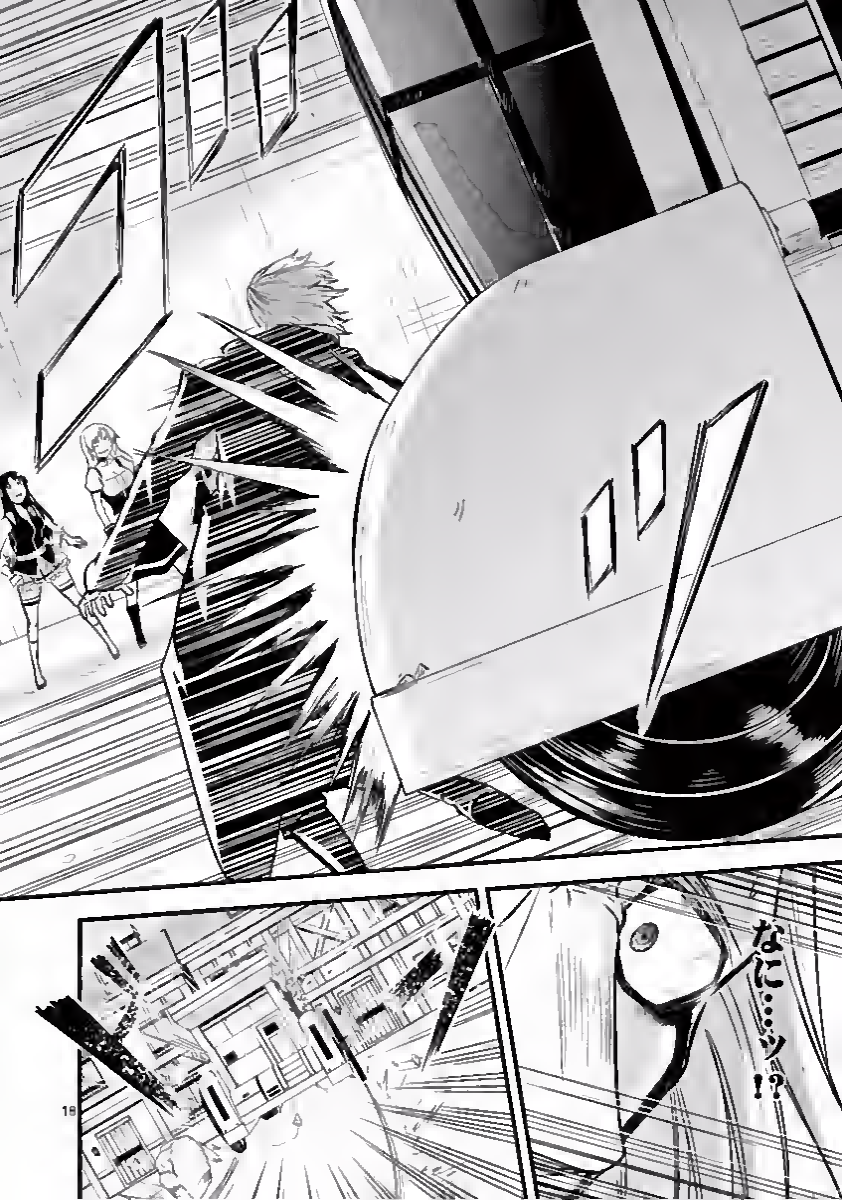
いや…

そもそも必要ねえ。

見せてやるよ…

魔力レベルでは測れない…

俺の強さってヤツをな…！


なに…ッ!?

魔導車…!!

テメーの千里眼は節穴か？

気づけなかったようだな。

俺たちにはもう一人、

仲間がいるってことを。

ディエゴ様ー

ディエゴ様ー

ディエゴ様ー

町長には別行動を頼んでいたのさ。

オイ！逃げる気かよーテメエー

ひッ！
こ…
殺さないでくれ！

おいアンタ…取引だ。
マルグリットのハダカニーソは見たくないか？

魔導車を取って来るようにな。
勝手になんて取引してるんですか!?

王女様…

町の平和のために戻ってきました。
ハダカニーソ
見せませんから！

これがムチフト力！

むっちり
フトモモに
惹かれる男の本能を
操る力――!!

しかし…
町長…

なぜヤツに
勢いよく
突っ込めた？

見た目は
人間だぞ…

この場に
いなければ、
敵だとは
わからなかった
はず…

メッセージは
届いたようだな。

ええ。

近くから見たら
わかんねえよな。

ドン

"白髪の男は敵だ"

アンリ。
遠隔見術で
町の人達を。

うむ。

ヒュ

レッ

さあて…

あとはあの
上級悪魔を
全員で倒せば…

ヒャハハ

ハハハ!!!

やってくれるじゃねェか！

クソ雑魚のクセによォ！

マジかよ！

まだピンピンしてんじゃねぇか！

チッ…所有権は奪われたか。

ちょっとばかし意識飛んじまってたか…

だが、アンリ。お前の魔力でいつまで制御できるかなァ？

まあ、犠牲を厭わずそいつら使えば勝機はあるかもなァ！

その必要はありませんよ。

心強い戦力を連れてきましたから。

バカ

ヒュ

そう！

勝機はこちらにありよ！

この…
勇者ミリィ・ユニスがきたからにはね!!

「ミリィ・ユニス」
——そう。
ユナには妹がいた。

この道は危険な
灰色熊の縄張りだ。

ここを無事
通り抜けるための
俺の作戦は…

そんなの！

出会ったら
ぶっ飛ばせば
いーじゃん！

ダッ

まったく
あの子は！

俺とユナとミリィ——
ガキの頃、俺達はいつも
一緒だった。

うわ！
ホントに
出た！

ガオオ

だから
言った
だろーが!!

第36話 ▶ 24時間

げ…！なんでお前がここに！
げ！って何よ！げって！
こっちのセリフだ。
村から出るなとあれほど言ったのに。
あれは…！
それにそのセリフは…
ダッ

だが、一段と成長したな。
さすがわが娘！素晴らしい！
ユナの親父…思い出した…
コイツはおっぱいを見ると誰だろうと見境なく揉もうとする…

とんでもねえド変態クソ野郎…!!
素晴らしい。
武術の腕も成長したか。
これはこれは勇者殿。
それに…王女殿下まで…
ん…
…貴方は…フィエリ様…
え？知り合い？

ククク…
勇者ぁ？
勇者が二人もいるわけねえだろ。
この国の連中はホラ吹きばかりなのかァ？
ドン
あたしの聖剣…「デュランダル」の力を!!
ふうーん…
じゃあ さっそく見せたげるわ！
グッ

ピシッ
へぇ…

ユニス流拳闘術――

火神鳴（ひがみなり）

土竜（アイン・ニーズヘッグ）

ねむい…
うおおお！スゲエ！
倒したんじゃねーのこれ！
ディエゴ様！
ディエゴ様！
ふむふむ。敵ながらなかなかの美乳じゃないか。
なるほど。危うく惑わされるところだったよ…
けしからんオッパイめ！
あいつだ！あいつも倒してくれ！あいつが町人達に魔術を！
せめて私の手で…！

パパ！

赤い針…!?

ヒャハハハハ!!

後ろの連中に当たっちまうから避けられねーよなァ！

あいっ…

あれだけやったのにまだ…！

いやいや、面白エ！泣けるほど面白エ!!そうこなくっちゃよォ!!

ただのクソ雑魚じゃねェってことは認めてやるよ!!

このままやり続けてェとこだが、当初の目的から逸れちまうんでな。

続きはまた今度だ。

パチッ

ダオッ

まだ他にも悪魔が…！

逃がしません！

!?

いいこと教えてやるぜ。

この町の連中に使った魔術は魔人化の魔術。

ちょうどあと1日くらいか。魔力レベルの低いヤツから次々と悪魔みてえな姿になっていくはずだぜ。

魔力レベルの低いヤツ…

そうなりゃコイツを殺したところで、戻りはしねぇ。

死ぬまで人を食らい殺す化け物のまんまだ！

死ぬまで…

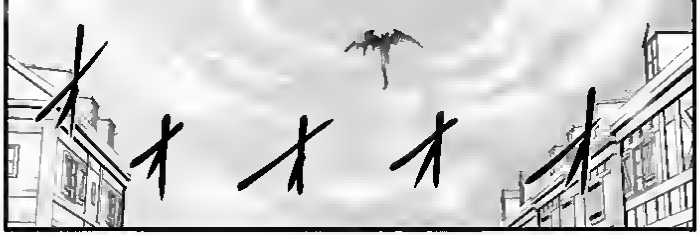
化け物に…？

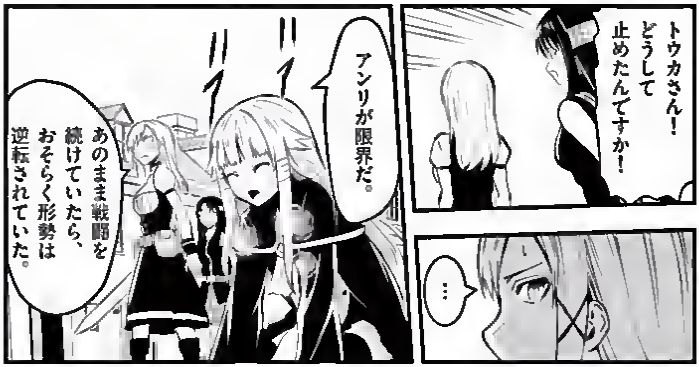
さあ あがけ！必死にあがけ！

俺はその様を遠くから楽しく見物させてもらうからよォ！

生き残ったらまた相手してやるよ!!

ヒャハハハハハ!!




トウカさん！どうして止めたんですか！
…
アンリが限界だ。
あのまま戦闘を続けていたら、おそらく形勢は逆転されていた。

音だ。
音で町の人達を誘導し、屋敷に閉じ込める。
それならわたくしに任せてください。

ドーン

先ほど戦った中級悪魔の爆発の魔術を、魔導弓で遠方に飛ばしました。
これで屋敷まで誘導します。

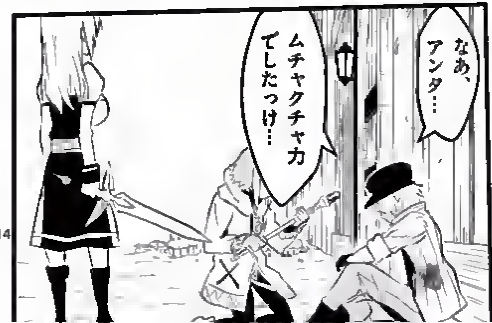
だ、大丈夫ですか。フィエリ様。
僕の"回復魔術"で……！

私より、彼を先に治してやれ。
かなりの重傷だ。

それって…
敵にかけられた
魔術も消してくれたり
するんすか？

い…
いえ！
それは僕にも
できません！
ご…
ごめんなさい…！

クソ…
悪魔になるって…
ふざけんなって
話っすよ…


なあ、
アンタ…
ムチャクチャカ
でしたっけ…

ムチフト力だ。

あはは…

あんな強敵相手に
あんなバカみたいな
ハッタリかますヤツ
初めて見たっすよ…

それに勇者を
殺したって…
何やってんすか…

いや、あれは事故で…
ってか、他の連中に
聞こえちまうだろ！

頼むから
内密に…

俺も
頼みたいことが
あるっす…

これ、

受け取って
もらえないっすか？

これは…

今ので最後です。

ホントにいいのか、あんた。

あ、ああ、

万が一の時は俺がコイツを守らなきゃ…ならないからな…

ハイ

ハイ

ああ…クソ…ああああああ！

コリン！しっかりしろ！

下がって…

壁を塞ぐから…

これは…

俺の魔晶石と魔導具っす…

奴らと戦う際に役立ててください。

俺、他人を騙すのが好きなんすよ…

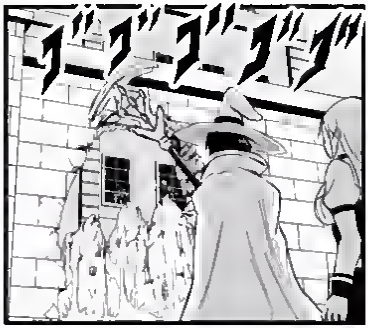
だから、あんたの戦い…無茶苦茶爽快だった…

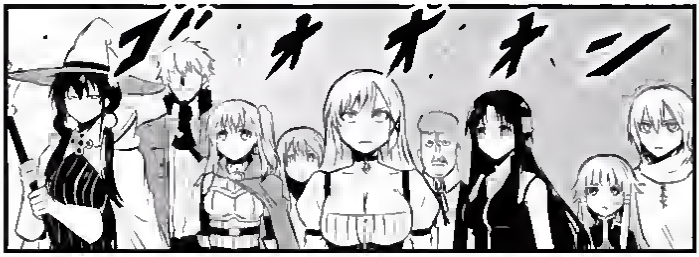
俺の命、

あんたなら託せる

あんたくらい無茶苦茶なヤツの方が希望が持てるってもんっすよ。

必ず倒してきてやるよ。





——ユナ達の魔人化まで、残り「23時間10分」

第37話 ト 魔術の才能
峻厳の月12日 午前7時50分
では、私は王都にこの事態を伝えに行きます。
間に合わなかった場合、魔人化した住民達を放置しておくわけにはいきませんからね。
逃げるんじゃねーぞ。
もう、逃げませんよ。
ま、どっちにしても魔人化なんてさせやしねーよ。
この町の町長として、そしてハダカニーソのために、果たすべき義務はきっちり果たします。
だから…見せませんから…！
必ず俺達が24時間以内にあの悪魔を倒してやるからよ。

でもトウカさん。あの屍術師と悪魔の居場所をどうやって特定するつもりですか？

こっちは透視と魔力視の魔晶石があるんだ。ヤツらの飛んでいった方角を調べながら進めば、いずれ特定できるはずさ。

どこに隠れていようがな。

おそらくヤツの口振りから察するに、連中のアジトに戻ったんだろうけどな。

アジト…

ああ。ヤツらが飛んでいった方角の線とシルエラが語った北東の線が重なる場所…

ここに、アジトにするならぴったりの場所が存在する。

俺とユナの故郷だ。

故郷？

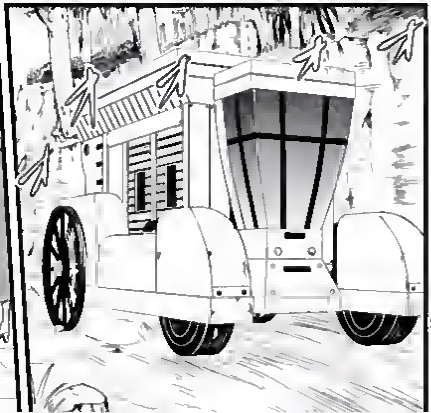
チェザ村出身ではなかったのか？

チェザには3年前移り住んだんだ。

俺達の故郷「エルバニア」は――

3年前、悪魔に滅ぼされちまったからな。

第37話 ▶ 魔術の才能



んじゃ…

知らねーヤツもいるし、自己紹介してくれないか？

はいはーい！じゃあ あたしがいっちばーん！

一番もらいっ！

あたしの名前はミリィ・ユニス！

勇者やってます！

ミリィ・ユニス
勇者（？）

年齢は16歳で、誕生日は勝利の月14日！
好きなものはチーズケーキと強敵とのバトル！
身長は155㎝で、スリーサイズはヒ・ミ・ツ！
よろしくね！

そんなとこまで聞いてねえよ！

てゆーか勇者って…マジで勇者なのか？

えっとそれはねー…

それは全員の自己紹介が済んだ後話そう。

私の名前は
フィエリ・ユニス。

ユナとミリィの
父をやってる。

フィエリ・ユニス
ユナとミリィの父親

好きなものは
娘とおっぱい
です。

今も素晴らしい
おっぱい達に
囲まれて
興奮してます。

なんつー
気色悪い
自己紹介だ！

お久しぶりです
フィエリ様。

こちらこそ
おひさしぶりです、
王女殿下。

まさか勇者シオンと
旅をされていたとは。

やっぱ
知り合い
だったのか。

ええ、
フィエリ様は
元四騎士
でしたから。

え？

4年前、
急に王都を去られて、
アイザックが
悲しんでおりました。

なぜ四騎士を
お辞めに…？

…

騎士団の女性達の胸をスキンシップのつもりで揉んでたら、セクハラで訴えられてね。

おはよう諸君！

ギャアアア!!

ヘンタイ!!

最終的に四騎士の称号をはく奪され、王都を追放されたのさ。

もう二度と近寄るな!!

もっとまともな理由かと思ったよ！

だが私は、彼女達の胸を揉み続けたことに後悔はない。

特に私の直属の部下シルエラ…あれは美しい乳だった…

シルエラ…あいつも大変だったんだな…

次はお前だな。

は、はい！

ぼ、僕はシャノン・ペトラルカ…魔術師です！

しゅ…趣味は編み物とお…お掃除です…！

あ、あの…お久しぶりです！ユナさん！

こえ？

シャノン・ペトラルカ
魔術師

お、おう
久しぶりだな！

えっと、
次は…

ドロシー！
ちょっと起きて！

スピー

スッ

紙？

ドロシー・
エレオノーラ。

スピー

ドロシー・エレオノーラ
魔術師

魔術師です。
おやすみなさい。

おやすみなさい!?

シオン…
それに
アンリ…

お久しぶり
です。
そして
おやすみなさい。
…だそうよ。

スピー

え…
知り合い
なのか？

彼女はかつて
勇者シオンの
仲間だったんだ。

仲間…！

…

まずいぞ…
まさか勇者の仲間がいたとは…
勇者ブランが死んだことがバレたらどういう反応するか…
それに…かつてアンリを受け入れたのは勇者だけって言ってたよな…
てことは、またカイルみたいにアンリの命を狙ってくるんじゃ…
それにしても勇者殿――
うちの娘に、王女殿下、さらには尻術師の少女まで…
いったいどういった経緯で一緒に旅を？
……
なぜ黙っている？
!!
いやー、こいつ地獄の門の封印が解けてしまったことに責任を感じててさ。
僕は世界を救うまで剣として生きるって言って以来ずっとこの調子よ。
まさか…そこまでの覚悟を…！
先輩として尊敬しちゃいます…！
なんとかごまかせた…

まあ、こいつらとは色々あってな。
話すと長くなるからそれはまた今度な。
……
お姉ちゃん…
さっきからずーっと思ってたけど、なんなのそれ…？
え？
話し方よ！話し方！
まるでトウカお兄ちゃんみたいじゃない！
!!
いやー、ハハハ！ずっと一緒にいるとしゃべり方が移っちゃってさ。
まさかお姉ちゃん…
あたしのトウカお兄ちゃんを取る気じゃないでしょーね！

あたしのって…トウカさんとはどういう関係なんですか…？

将来を誓い合った仲よ！

ガ

ト…ユナさん？

ち…違う！まだ決まったわけじゃない！

オオオ

昔あいつが急に剣闘試合を挑んできて…

トウカお兄ちゃん！あたしが勝ったら、将来お嫁さんにしてくれる？

はは、お前みたいな小娘が、この俺に敵うとでも？

ドッ

やったー！あたしの勝ちー！

まま、待て！一回勝負とは言ってないだろ！

10

百回俺を倒さなければ、お前の勝ちにはならない！
ドーン
え―！
まーいっか！
その後、事あるごとに決闘を挑まれては、ボコボコにされてな…
お兄ちゃん朝だよ！
決闘しよ！
お弁当作ってきたんだ！
食べもあと決闘しよ！
決闘!!

ただ、いよいよ回数が近づいてきたらユナが助けてくれるようになったからまだ大丈夫のはずだ…
そもそもなんでそんな約束しちゃってるんですか…！
いや…ガキの時なんでそんなもんだろ！
こんな目に遭うとは思わなかったんだ！

トウカ・スコット…
まさかここまでユナに悪影響をおよぼすとは…
フトモモフェチの気色悪い変態…
ゴゴゴゴ
娘の将来のために、やはりあいつは始末しておくべきだった…
テメーにだけは言われたくねーよ！

だから苦手なんだよ、この親子は…
ユナだけだぜ…俺に優しかったのは…
それとユナ…これが終わったら村に帰りなさい。
戦いは父さん達に任せて、お前はあの村で静かに暮らしてなさい。
ピクッ
いやー、確かに村でのスローライフは最高だけどよ。
でも、そうやって束縛するのは良くないだろ。
村じゃできないことだってたくさんあるしな。
ほら、ユナ…私にだって魔術師になりたいって夢があるんだし…
まだそんなこと言ってたのか！
お前には魔術の才能がない…
ここまで旅してきたのなら、それははっきりと感じただろう？

とにかくだ。村に帰ったら金輪際魔術と関わるな。

これは命令だ。

おいおい…

そこまで娘の夢を否定するか…普通…？

そういやユナの家…武術の名門として有名だったよーな…

それが原因か…？

なんにしても空気悪くなるし、話切り替えた方が良さそうだな…

ま…まあ…その話はひとまず置いといてさ。

ミリィがなんで勇者を名乗ってるのか教えてくれよ。

あ、それはね…

なんだ!!

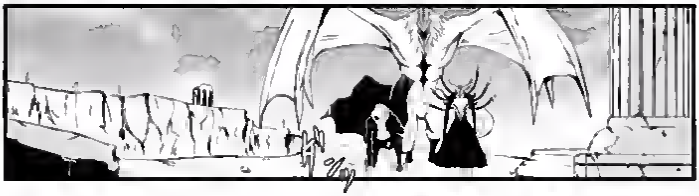
何が起こった!!

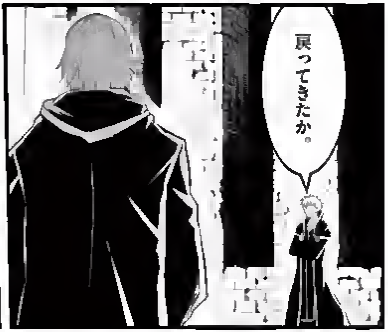
——ユナ達の魔人化まで、残り「21時間」

エルバニア近郊

水神の神殿遺跡

第38話▶ハンティングゲーム





ああ、3日で町の人間ほぼ全員に魔術がかかった。

こいつが直接魔術をかけたのはたった一人なのにだぜ。

魔術との相性も最高。王都を落とす際の重要な戦力になるぜ。

リーランドのアホとは大違いだ。

ワラワの力がお役に立てて光栄です。

ただよォ、このクソアマ、

俺が目を離した隙に調子こいて勇者のいる屋敷に乗り込んでなァ。

もう少しで!!

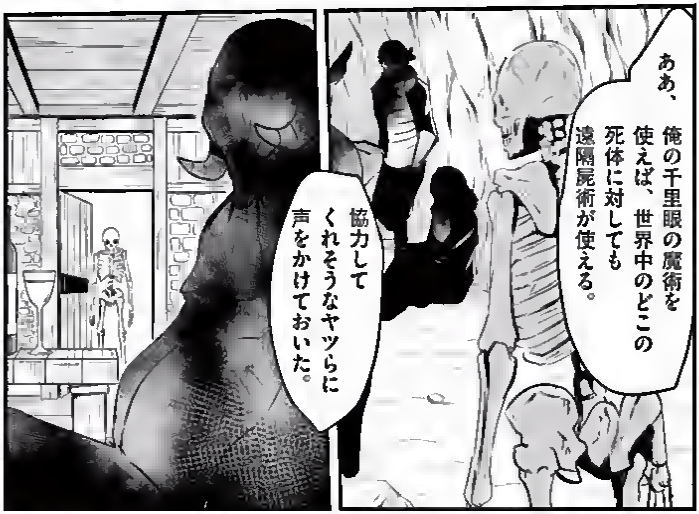
計画が!!

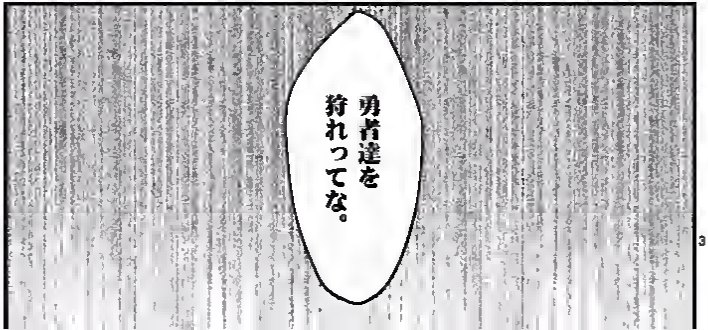
台無しになっちまうところだったんだぞ!!

クソ雑魚のクセによォー

ああああ…

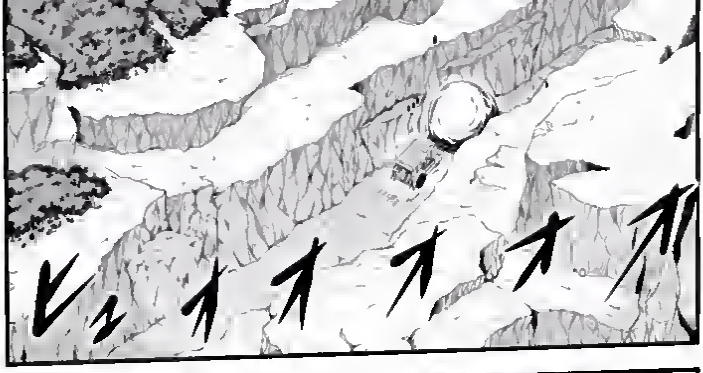
ほう…勇者がいたのか。
ヒャハハハ！そうそう！そいつらと楽しいゲームを始めたとこでよ！
楽しいゲーム？


ああ、俺の千里眼の魔術を使えば、世界中のどこの死体に対しても遠隔屍術が使える。
協力してくれそうなヤツらに声をかけておいた。

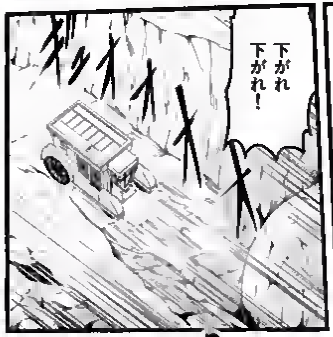

勇者達を狩れってな。

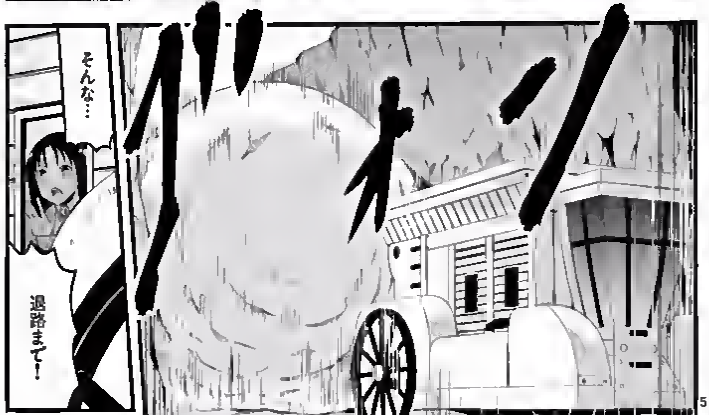
クク…せめて一人くらいはここまで辿り着いてくれよ。
つっても、ここにいるのは千体の悪魔！

辿り着いたところでゲームオーバー確定なんだけどよォ！
ヒャハハハハハ!!


ヒュオオオオオ

なんだ！何が起きた！
突然岩が降ってきた！


ギュオオオ
下がれ下がれ！


そんな…
退路まで！
ゴオン

だいじょーぶ！あたしがぶっ壊してあげる！

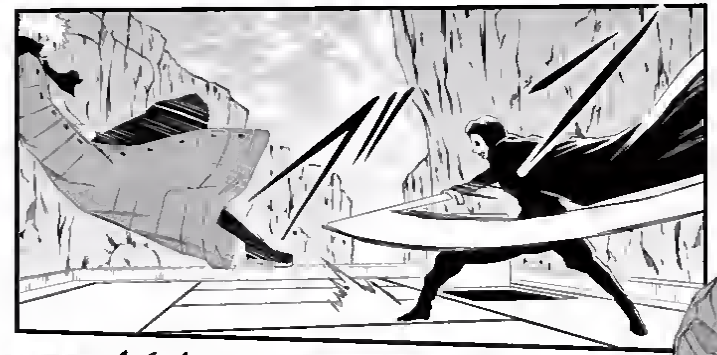
駄目だ。お前は慎重さに欠ける。

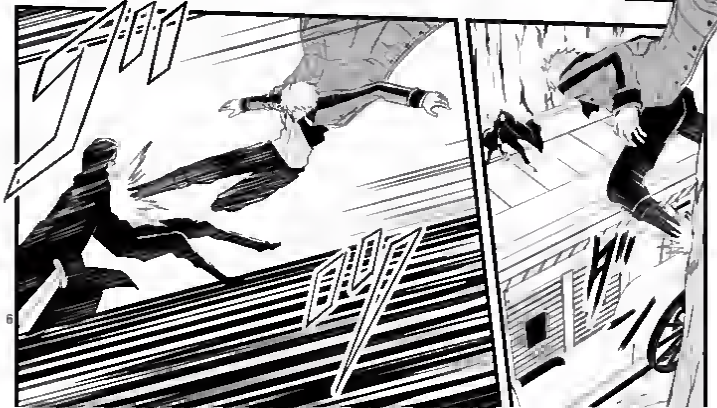
私とドロシーが行く。

道が開けたら全速力で、この場から離れろ。

まだ眠い…

ガラッ





ゾンビ…？
あの町の人間…？
いや…
こいつらは屍術で操られた正真正銘の死体だ。
そう…
それなら──
加減はしない…

「金剛砕破」

ユニタ流拳闘術。

よっしゃ！
道が開いたぞ！
退避だ！
シャノン！

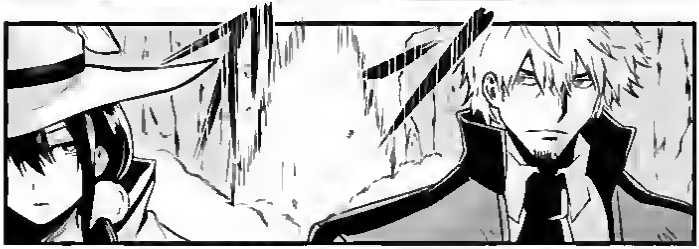
クク…
引き返したのは
正解だ。
この先には
大量の罠が
仕掛けてある
からね。

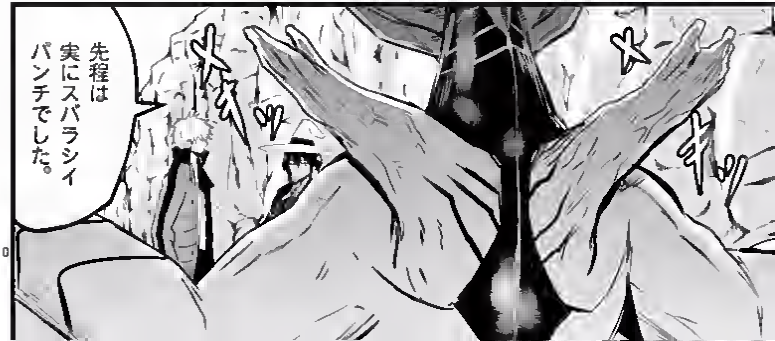
だが…

パパ！

おい！
止めろ！

うひょひょひょ…
ひゅひゅひゅひゅひゅ…
ひゃひゃひゃひゃ…




先程は
実にスバラシイ
パンチでした。

このワタシとパンチ比べしましょう。

パパ！ドロシー！

今助けるから！

ここは我々でなんとかする！お前達は先に行け！

先に行けって…！

魔導車がやられたら間に合わねえ！

言われた通り先に行った方がいい！

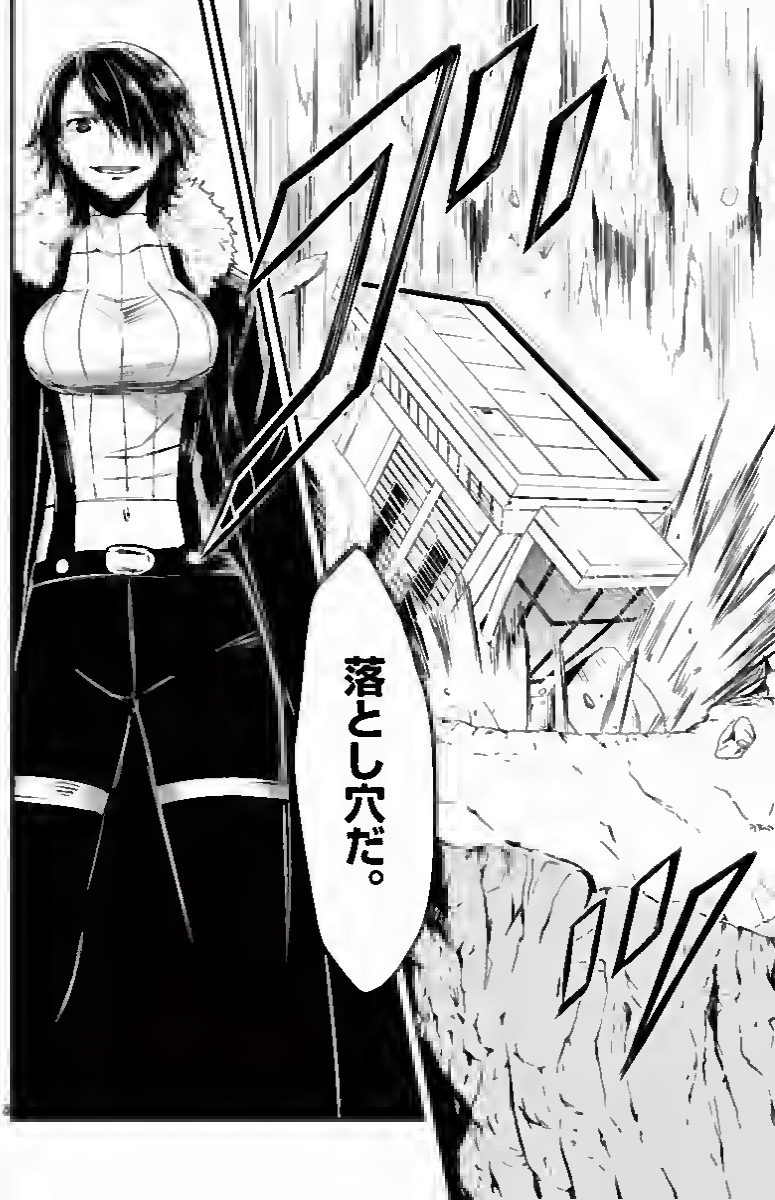
ひ…ひいいいッ!!

なんだよ！あのデカい悪魔は…!!

"アイシ・アイム"

「爆発の矢」!!

グチオ
オオ!!
倒れない…!
グチオオオ
まだ追ってきます!
大丈夫だ! この先も道が続いてる!
オオオオオ
このまま振り切っちまえ!!
残念。
その選択は不正解だ。
その先は——


ゴゴゴ
落とし穴だ。

うおおおおッ!!
今度は落とし穴かよおおォッ!!
このまま落ちたらあたしたち…
死…!!

第39話▶霧

エルバニアへ
向かうにはこの岩場を
通り抜けるのが一番早い。

ここに罠を張れば、
簡単に引っかかって
くれると思ってたよ。

しかし残念。

あの魔導車、
あまり壊さずに
手に入れたかったんだがね。

盗賊失格だよ。

さっすがお頭！

残りの二人も
時間の問題
ですぜ！

なにせ、上級一体に
中級三体ですから！

お前はあの二人の戦闘を見張ってな。
何かあったら笛で知らせろ。
あれ？どこに行くんです？

まだ終わってない。
相手は勇者パーティー…
落とし穴で殺せるわけがないだろ？

おいー みんなー
無事かー

まったく落とし穴とは…トウ…ユナ殿…このようないたずらは感心しないぞ！

俺が掘ったんじゃねーよ！

うう…

これは…

聖剣の硬さを調節してクッション替わりにした。

ちょっとちょっとちょっと！いったいどーなってんの!?

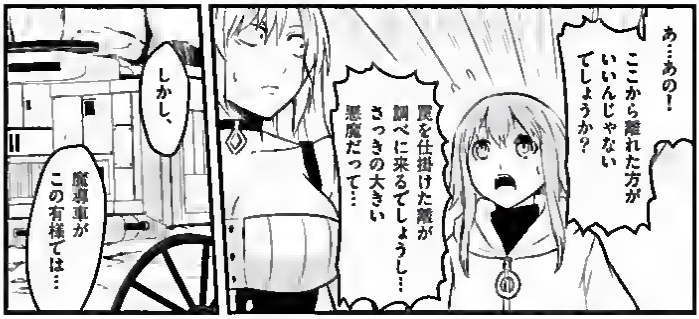
なんでお姉ちゃんが聖剣使えてるわけ!?

こ、これも勇者シオンの能力なんだよ！

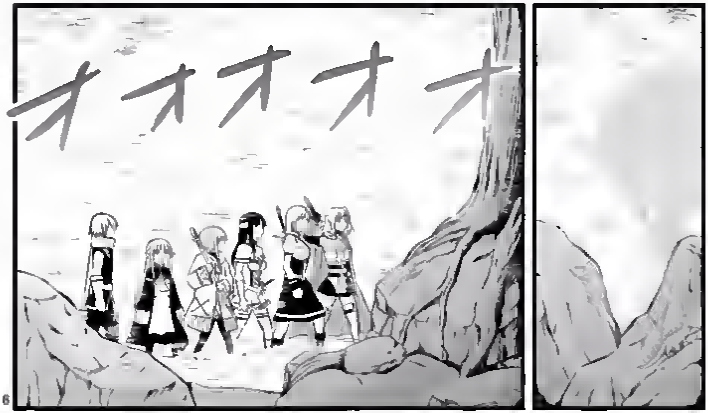
誰にでも聖剣を使用可能にする能力！

な！シオン！

そ…そうなの…？そんな力聞いたことないけど…


あ…あの！
ここから離れた方がいいんじゃないでしょうか？
罠を仕掛けた輩が調べに来るでしょうし…
さっきの大きい悪魔だって…
しかし、
魔導車がこの有様では…

この近くに町があるようです。
いったん徒歩でそこへ向かいませんか？
…そうだな、行ってみるか。
他の移動手段や魔導車を修理できるヤツがいるかもしれねーしな。


オオオオオ

6

…すごい霧ですね。

迷子になってしまいそう…

あの…僕…コンパスを持ってます！

あ…あれ…コンパスが…

グルン

グルン

壊れてるな。

心配することはねえ。

方角を調べる方法ならいくらでもある。

たとえば木の苔。

日の当たりにくい北側は、南側に比べて苔の量が多い。

あれ…

この苔の量…

普段から霧が発生しやすい場所ってわけでもなさそうだ…

たまたまか…それとも…

そんなまどろっこしいことする必要なんてないわ！

あたしにまっかせなさい！

こんな霧、

聖剣の剣風で吹き飛ばせば！

ふふん！どう！

さ！早くいきましょ！

おいミリィ！ちょっと待て！

ここにも罠が仕掛けられてる可能性がある！

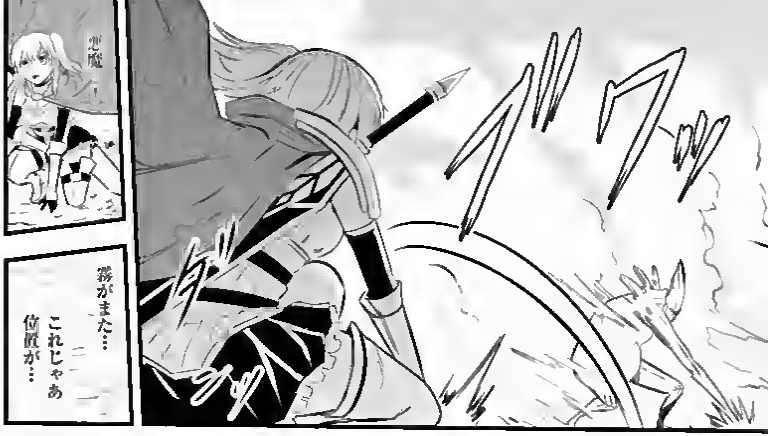
ここは慎重に…

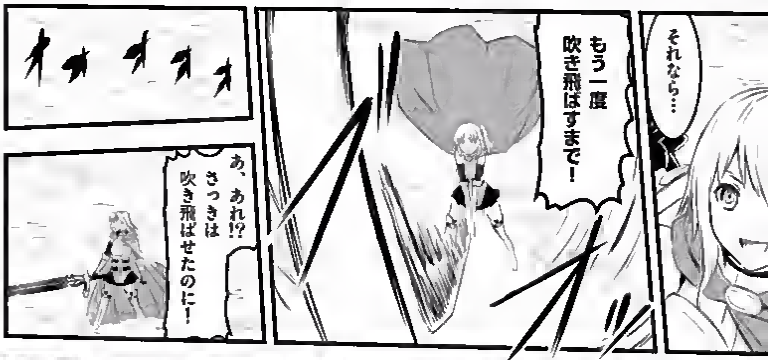
もー、お姉ちゃんは心配症なんだから！

こんなとこにまで罠が仕掛けられてるわけ…

ガッ

仕掛けられてるわけ…
トウ…ユナ殿。ミリィ殿に恨みでもあるのか？
だから違エよ！
おい！ミリィ！早く戻って来い！
う…うん…！
わかった！
オーンオ
ウクソウ
ニク…
ボ
ワッ


雲魔
霧がまた…
これじゃあ
位置が…


それなら…
もう一度
吹き飛ばすまで！
あ、あれ!?
さっきは
吹き飛ばせたのに！

おいおい…
さっきより
霧が濃くなってんぞ…
大丈夫か！
ミリィ！
お姉ちゃん！
霧の中に…
悪魔がいる！
良かった！
無事だったか！

バーン

うわ〜ん

無事じゃねェ!!

お…恐ろしい悪魔達だったわ…

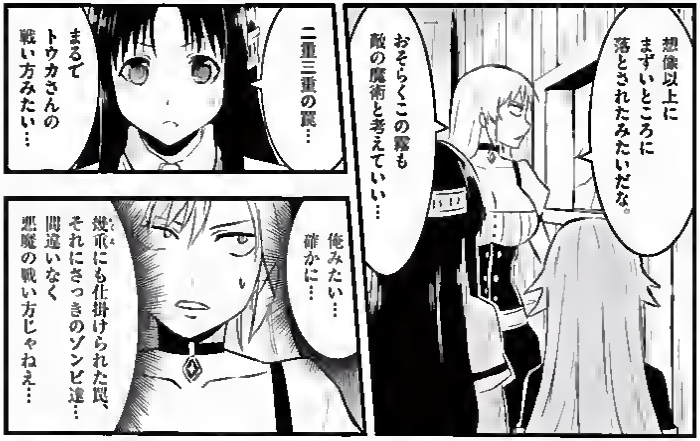
ひぃぃ!

悪魔じゃなくて変態の間違いじゃないのか?

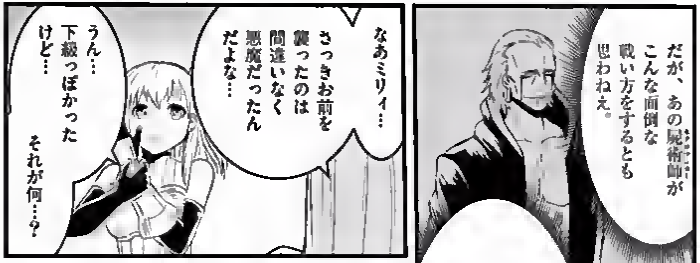
ひぃぃ!

よし…じゃあ次はマルグリットが行ってくれ!

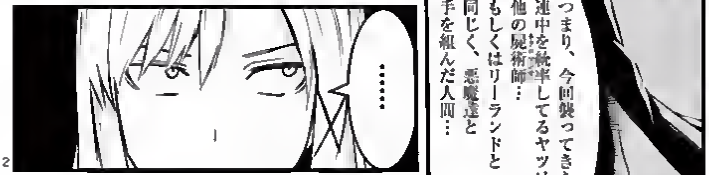
行きませんから!!

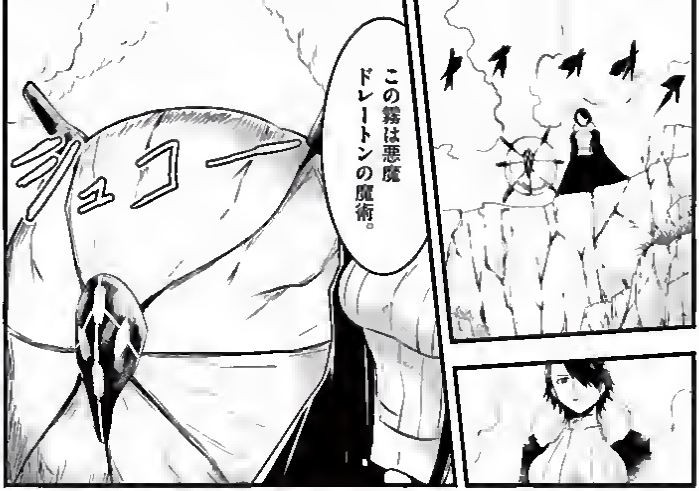

想像以上に
まずいところに
落とされたみたいだな。
おそらくこの霧も
敵の魔術と考えていい…
二重三重の罠…
まるで
トウカさんの
戦い方みたい…

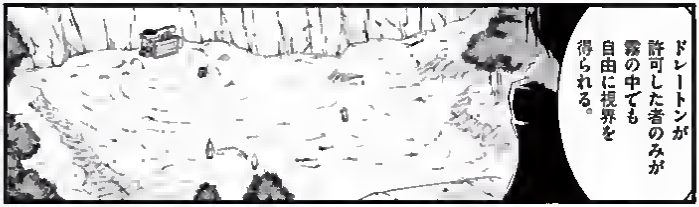
俺みたい…
確かに…
幾重にも仕掛けられた罠、
それにさっきのゾンビ達…
間違いなく
悪魔の戦い方じゃねえ…


だが、あの屍術師が
こんな面倒な
戦い方をするとも
思わねえ。
つまり、今回襲ってきた
連中を統率してるヤツは
他の屍術師…
もしくはリーランドと
同じく、悪魔達と
手を組んだ人間…

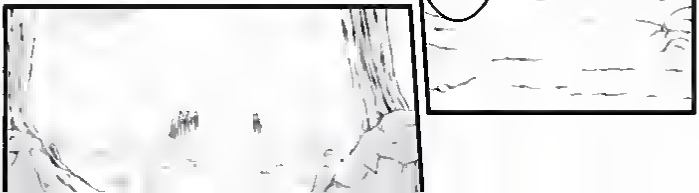
なあミリィ…
さっきお前を
襲ったのは
間違いなく
悪魔だったんだよな…
うん…
下級っぽかった
けど…
それが何…？

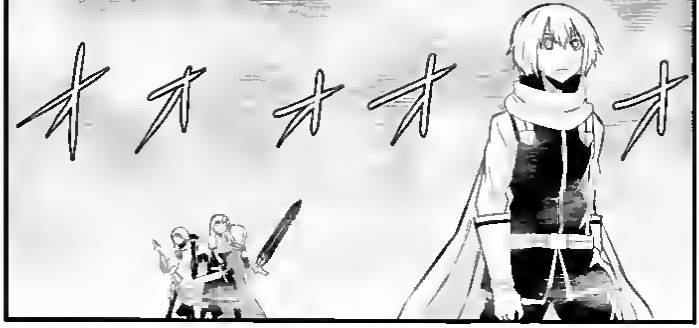

……


この霧は悪魔ドレートンの魔術。
ジュコー


ドレートンが許可した者のみが霧の中でも自由に視界を得られる。

出てきたか…
警戒しているようだな…
お前達がどう動こうが、すべて筒抜け!
さあ…どうする?




オ オ オ オ オ

シオンを遠隔屍術で先行させ、安全な道がどうか確かめる。
これでほとんどの罠は回避できるはず。

だ…大丈夫なの…？
いくら勇者シオンとはいえ、罠にかかれば…

安心しろ。
世界を救った男が罠にかかって死ぬわけないだろ！

なるほどねえ…

勇者が死んだ…という情報は本当だったのか…
確かに死体なら罠にかかっても問題ない。

そして四方からの悪魔の攻撃を警戒しての陣形…

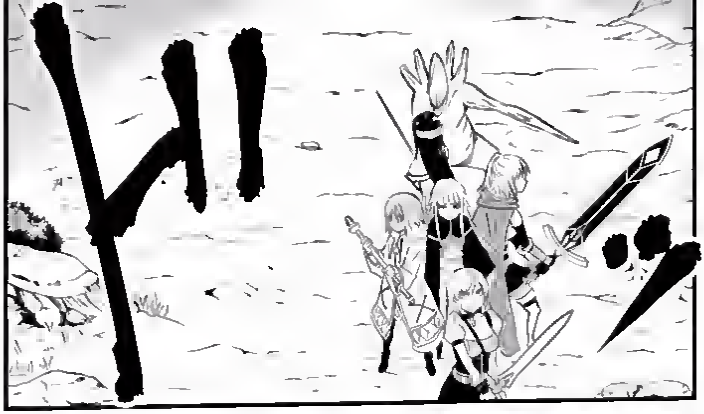
…少しは頭を使えるようだね。

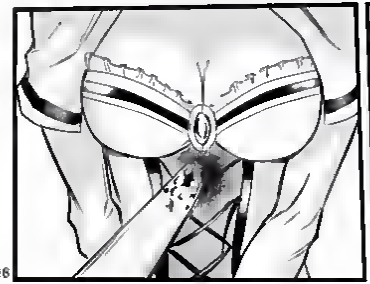
しかし、

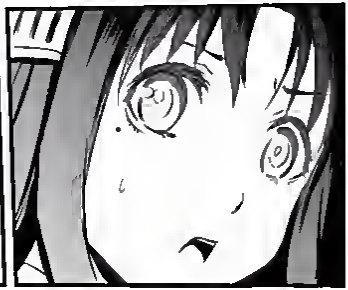
甘いね。

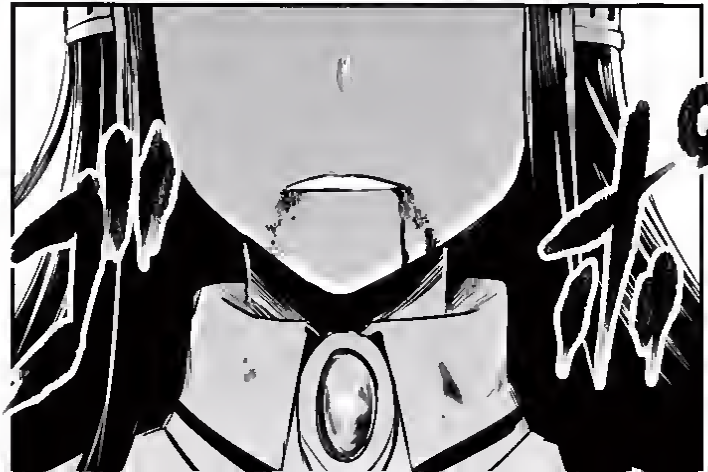
これはただの霧じゃなく、魔術の罠…

気配すらも消し去る。









マルグリットォッ!!

まず…一人…

「もしマルグリットを襲った悪魔が別の悪魔だったら」

マルグリット……！

第40話 ▶ 全滅

おい…マルグリット！

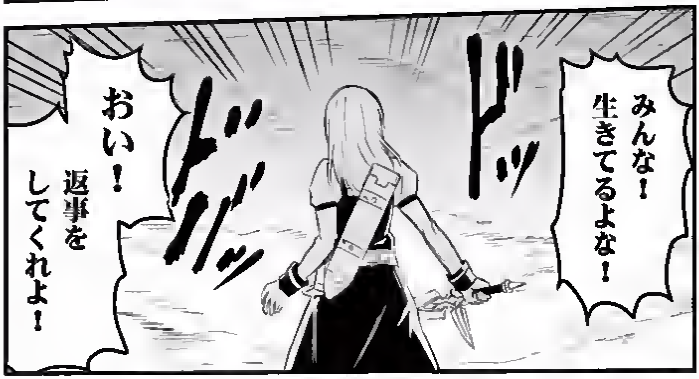
返事をしろ！

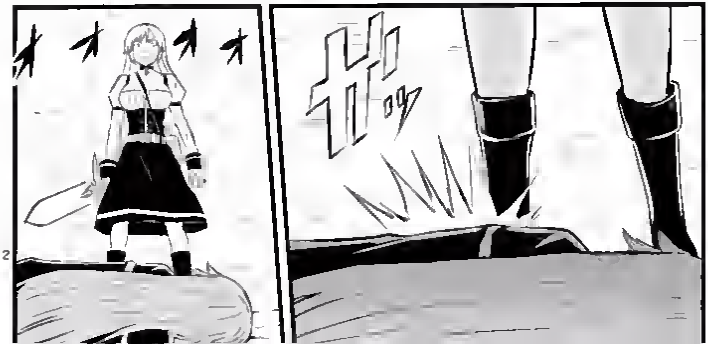
ヒメ殿！

退いてください！

僕なら……！

ドサッ
おい！
何があった！


みんな！
生きてるよな！
ドッ
おい！
返事を
してくれよ！
ドッ


ガッ

みん…な…
嘘だろ……！

なあ…
みんな…
冗談だろ…？

こんな簡単に……！
こんな簡単に
みんな死ぬわけ！

形状変化……！

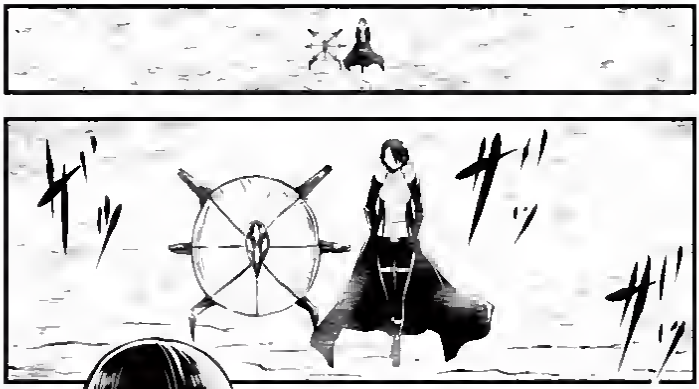
ちくしょう…
ありえねぇ……！

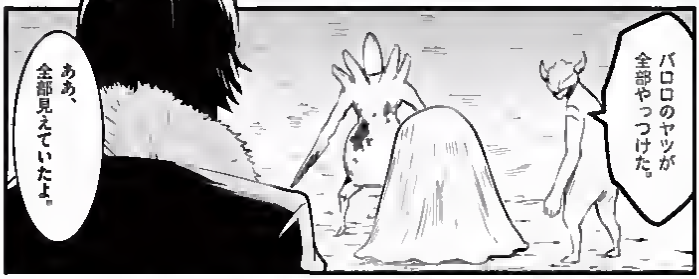
頼む！
頼む！
助けてくれ！

降参だ！
もうこれ以上は
やめてくれ！

なあ！
聞こえてるんだろ！

こいつらの
リーダーさんよ！


ザッ
ザッ
ザッ


バロロのヤツが全部やっつけた。
ああ、全部見えていたよ。

全員…死んでる…
残りはコイツ…だけ。

ははは！仲間がやられたと知るや否や、自分だけ無様に命乞い…
こんなどうしようもないクズが聖剣の使い手とは…いったいなんの冗談だ？

聖剣…！
聖剣をやるから命だけは助けてくれ…！
頼む…！
ははは！
聖剣も捨てる気か！
だが…
悪いけど口だけじゃ信用できないねえ。
さっさとその殻から出て行動で示したらどうだい？
そうしたら考えてやる。
ヒュル
ヒュル
こ…これでいいだろ！
なあ！

本気か…？

いや、仲間が全員殺されたこの状況…

こうまでして命乞いをするのも無理はないか…

わかった…

考えた結果…

この聖剣はありがたくいただくことにするよ。

ただし、お前にはここで死んでもらうがね。

そんな…

ふざけんじゃねえ！

約束しただろ！

考えてやると言っただけだ。

悪いけど、あたしは外道なんでねぇ。

…

なら遠慮なくやっちまえ。

アンリ。

うむ。

まさか…
死んでない…だと！

おいミリィ…なんだその格好は…

その悪魔に破られたのよ…お姉ちゃんがいつまでも死んだフリさせるから…

クソ…

憑依屍術か…！

そういうわけさ…

うちの屍術師がその悪魔を操って、全員殺すフリをして回ったのさ。

信じていただくために、最初の標的になったわたくしだけはわざと攻撃を受けましたが。

他のみなさんの血はわたくしが持参した絵の具を使いました。

急所でなければ僕の回復魔術も間に合いますので。

その悪魔、いつ殺した……！

アンリさんが操作した悪魔は、わたくしが刺されたタイミングに反撃して倒しました。

チメーには見えなかったよなぁ。

マルグリットの身体の大部分は、テメーの位置からじゃ死角だったからな。

ドッ

まさか…あの陣形もそのために……！

ただ悪魔の襲撃を警戒しての陣形じゃなかったのか……！

おかしい…

だが今までの作戦はすべて、こちらの位置を把握していなければ行えない……！

この霧の中では視界も気配も…

そりゃ一番簡単だ。

スッ

テメーらの位置も動きも全部見えてたのさ。

こっちには透視と魔力視の魔晶石があるからな。

ならテメーを引きずり出すには、

絶対に勝てると勘違いさせる状況を作り出せばいいってわけよ。

そしてテメーはまんまと俺の罠に引っかかってくれたってわけだ。

いやー、

この俺に罠対決で挑もうなんざ百年早えーんだよ。

でも、ほとんど王女様とアンリちゃんのおかげよね。

ヒュオ　オ　オ　オ

ヒュオオオ
霧が…晴れてきたな。
ほほう…
透視
見たところなかなかのフトモモの持ち主じゃねーか。
トウ…ユナさん…霧…晴れてきたんですから、透視の魔晶石必要ないですよね…？
い…いや、武器隠してるかもしれないだろ？
さて…俺も無益な殺しはしたくねえ。
ハダカニーソで土下座したら許してやらんこともないぜ？
お姉ちゃん…そこまでトウカお兄ちゃんに毒されてたなんて…
僕達…勇者パーティーですよね…なんだか僕達が悪者みたい…
トウ…ユナさん…
ほら、やるのかやらねえのかはっきりし…

ひいいい！ごめんなさいい!!

スポーン

えええええ!?

な…

なんでこんなとこにいるんだよ……

ええ!?

師匠!!

師匠!?

一方その頃フィエリ達は・・・
ドロシー戦って!!
土の魔術で密室を作り
睡眠中

エセル・ボーグナイン…

俺は、昔この人に罠の作り方もサバイバルの知識も教わったんだ。

エセル・ボーグナイン
盗賊
トウカの師匠

第41話 ▶ 師匠

久しぶりだな…師匠…

服着てください。

師匠…？

お前みたいなヤツ…弟子にした覚えはないぞ。

しまった…ユナの身体ってことすっかり忘れてた…

クソ…どうする…

そういうことだったのね…

ハダカニーソを要求する時点で流石に気づくべきだった。

お姉ちゃん…

いや…

トウカお兄ちゃんなんでしょ…

トウカだと…？

憑依屍術だ。

アンリ…「生者の棺」を。

う…うむ。

!?
トウカ！
やっぱり…
ということはお姉ちゃんは。
大丈夫だ。死んでねーよ。
あとでちゃんと説明する。
昔、あの方と出会ったというのは…
それは、以前話してたファロムと北のアラード王国が争っていた時期の出来事でしょうか…？
ああ…出会った頃は実はもう門が開いちまって戦争どころじゃなくなってたけどな…
たしか3年半前だったか…
おお！やはりトウカ殿の策士っぷりには理由があったのか！
3年半前、親を失い、一人故郷に帰ろうとしてから半年以上経った後――
俺がいた北大陸は、すでに悪魔の脅威に晒され始めていたんだ。

そして俺は悪魔から逃げる途中、師匠の作った罠に引っかかってしまった。

おーい！

誰か！！

非力で逃げることしかできなかった俺は死ぬかもしれないってのになぜかその罠に感動してしまったんだ

この悪魔…死んでる…

その数日後に師匠はやってきた。

やれやれ。ガキを捕らえるために作った罠じゃないんだけどねえ。

助けてやっただけでも感謝するんだな。

ぐうううう

あはははは

このご時勢にお前みたいなガキが一人でエルバニアまで？

無理だ無理！

あたしの予想じゃもって二週間ってとこだね。

じゃあ、頼む…
連れてってくれ。
金だって少しくらいなら…
ドサッ
はっ！なんであたしがガキのおもりを
冗談じゃない！
じゃあ、俺を弟子にしてくれ…！
あんたの技術があれば、俺一人でだって…！
ガリッ
悪いけど、あたしは賞金のかかった悪党だ。
殺されたくなけりゃさっさと失せろ。
ガキ。
エセル・ボーグナイン
5000万クルーク
ビュオオオオオ
ザッ

何度か民を仕掛けてたんだけどねえ。

頼む…

どうしても帰らなきゃならないんだ…

……なぜ悪党のあたしなんかにこだわる…

……

……一週間だけだ。

なんだその穴は。
もっと深く掘れ。

いや、これくらいで十分だろ…
どーせ下に槍も仕掛けるんだし…

お前みたいな非力なヤツがそこで手を抜いてどうする。
万が一脱出されたらどうなる？
お前はそこでお仕置いだ。

でも、そんな悠長なことやってる時間…
気が変わった。

エルバニアへの道中で全部叩き込んでやるよ。

え…？

い、いや お前の境遇に 同情したわけじゃ ない…！ この大陸は 潮時だってだけだ。

あたしは、 お前の故郷はもう 悪魔にやられてると 予想してるんでね。 大事場泥棒で 大儲けってわけさ。

ありがとう…

あたしま 悪党だ。 助遣いしたら 殺すぞ。

それから数か月 師匠にしごかれながら、 俺はエルバニアへ帰ったのさ。

お前また寝てる間に ニーソはかせたな！

着替えのそいてたろ！

このナイフ捌き、 勉強になる。

ブラーン

この縛り方 勉強になる。

ま、結局エルバニアは 滅ぼされちまったんだけど。

トウカ…

ははは、そうかトウカ…

トウカだったのか！

なるほど、勇者を殺した男はお前か！

あははははは！確かにお前、勇者のこと嫌ってたもんな！

ええええ!?勇者を殺したってどういうことよ！お兄ちゃん！

違ェよ！あれは事故なんだ！あいつが勝手に罠にかかって死んだだけだ！

師匠こそ…

なんであいつらの味方なんかしてんだよ…

あいつらは人間を滅ぼそうとしてるんだぞ…

あたしは3か月前、地獄の門にいた。

!?

そこで考え方が変わったのさ。あいつらの復讐とやらに協力してやることにしたんだ。

ま、元々あたしも権力者は嫌いだったしね。王国にケンカを売るなんて愉快な話じゃないか。

王国に…

理由になってねー。

なんだよ、地獄の門に何かあるってのかよ。

行けばわかるさ。

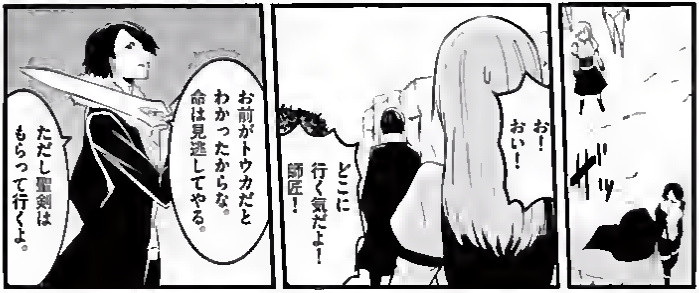
はああ!? 行けばわかるって…

お前もだ、〝屍術師〟。

自分で行って、自分で考えるといい。そこで決めな。

何を選んで…

何を切り捨てるかをね——



ちょっと待てよ！ふざけんじゃねー！！

魔導車壊した上に聖剣まで持ってくつもりかよ！

そいつは必要なんだ！返してくれよ！

知ったこっちゃないね。

あたしは盗賊。こんなすごいお宝、簡単に手放すわけがない。

ちょっと待った！

わ…わかった！聖剣はやる！

その代わり地獄の門まで付き合ってくれよ！

な、いいだろ？師匠がいれば百人力だぜ！

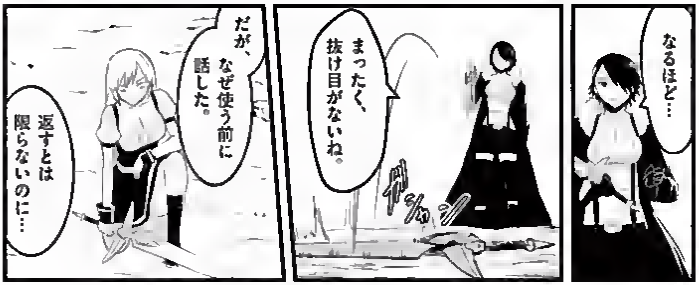
はああ!?

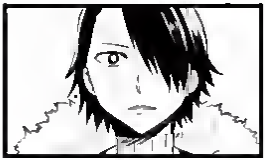
お前とは敵同士だぞ！

なあに、タダでとは言わねえよ。

師匠の右腕の無事と引き換えだ。

聖剣の握りを調べてみろ。
そいつは雷の魔術を誘導する針。
手を放さねーと直撃は免れないぜ。





わかった。
あたしの負けだ。
ここから北東に魔導技師の工房がある。
魔導車もそこで直せるはずだ。
連れてってやるよ。
いやーー さすが師匠優しいな！ そう言ってくれると思ったぜ！
でもよー…
それだけじゃないよな。
え？
俺達は命の取り合いをして…師匠は負けを認めた。
これはつまり命を差し出すか…代わりの条件を呑むってことになるよなァ…
え？
クソ…何が信用してるからだ！
いや…俺と師匠の仲だ。別に強制はしないぜ…？
でも…憧れの師匠が口先だけの人間だったなんて幻滅しちゃうなー。

クソ弟子がああああああああ!!!

ぷる

ぷる

ぷる

お前…元の身体に戻ったら命の心配しとけよ。

え…

後ろからも注意していてくださいね。

ゴゴゴゴゴゴ

え…？

——ユナ達の魔人化まで、残り「20時間30分」

ギョオオオオオ
フ…
いよいよ我が
双槍術最終奥義を
放つ刻がきたか…
ギョオオオオ
第42話 ▶ 魔導技師の工房
双槍術最終奥義――
邪竜葬送双蒼破――!!
ヒヒン!!

おお…もう倒したのですね！

さすが悪魔を百体以上倒した伝説を持つ男！

・・・

ハガカニーソ

この馬…できる…

ベラーコ君と合流できてホッとしましたよ。いくらハガカニーソ…もとい町の平和のためとはいえ、一人では間違いなく途中で諦めていたことでしょう。

ですが、もう大丈夫です！

ほう…大丈夫とは？

なぜこのような入り江に…

私のような田舎の町の町長が、どうしてあのような豪勢な屋敷を建てられたと思います？

私は昔、商人をやってましてね。

武器や魔導機械の類いを色々と取り扱ってたんですよ。

そしてこれが…

戦争の時も、悪魔が現れた時も、それはもう笑いが止まらないほど儲けましたね。

ははは！思い出したらまぁた笑いがこみあげてきました。ははは！あははは！あひゃひゃひゃひゃ！

その時扱ってた品の残り…

小型の魔導船です。

これなら王都の浜辺まですぐですよ。

今日中に国王陛下に事態をお伝えしようじゃありませんか！

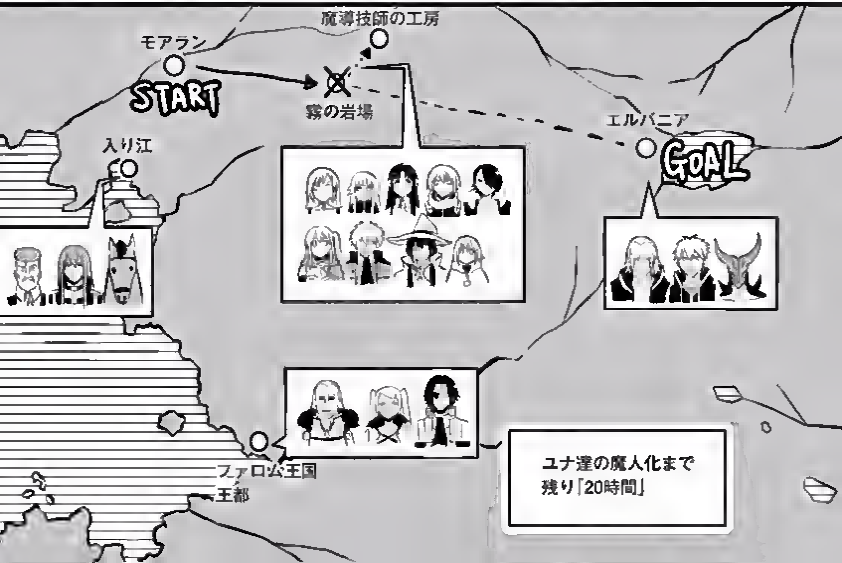
王女様のハダカニーソ…もとい町の皆を救うために！

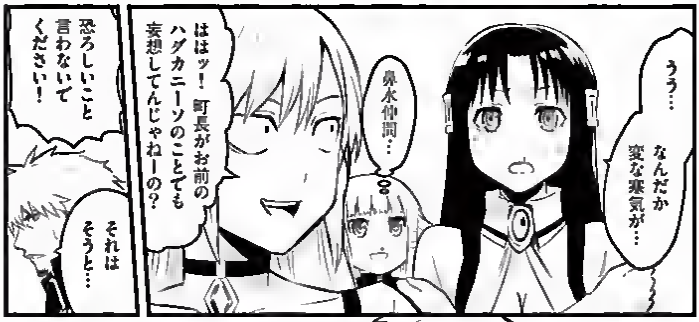
ヒヒン！

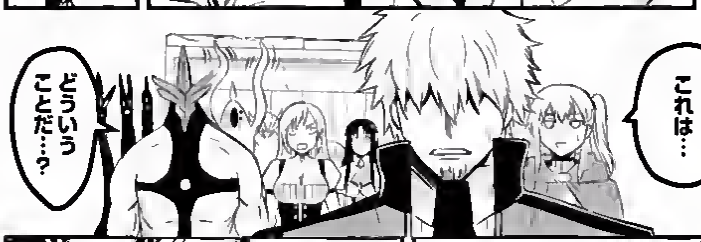
ハダカニーソ……

3

第42話 ▶ 魔導技師の工房




うう…
なんだか変な寒気が…
鼻水伸び…
ははッ！町長がお前のハグカニーソのことでも妄想してんじゃねーの？
恐ろしいこと言わないでください！
それはそうと…


これは…
どういうことだ…？

なぜ悪魔が協力している…
ズン
ズン
ま、まあ…色々あってな。
うひょひょ。
ひゅひゅひゅひゅ。
ひゃひゃひゃ。

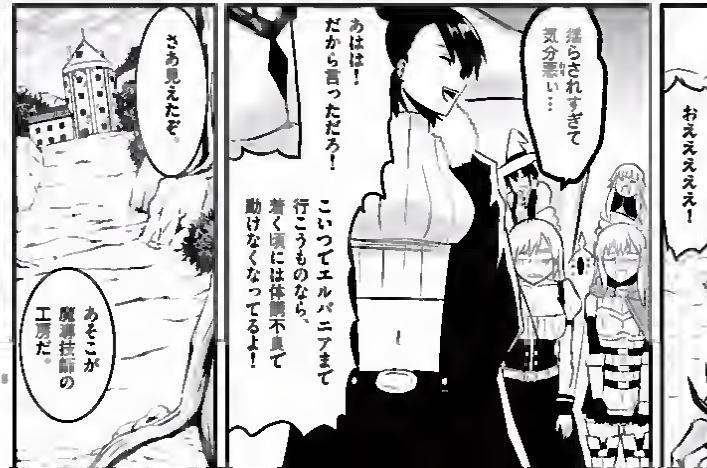
もう少しパンチ比べをしたかったですが、
団長の命令なら仕方アリマセンね。
ひゅひゅひゅひゅ…
それで…イツ…
コイツらをタベテいいんダ？

それは死にたいってことかい？
あたしの前で人を食べると殺す。
いつも言ってるだろう？
ゴメン…ナサい…
しゅん

上級悪魔も中級悪魔も完全に従っている…
トウカさんの師匠だとしても…
この人を完全に信用するのは危険すぎるのでは…

エセル・ボーグナイン…ボーグナイン盗賊団団長…
王都で指名手配されていた犯罪者か。
ああ、そういやあんた元四騎士様のフィエリ・ユニスか…
あたしのぶっ殺したいリストに入ってるよ。
奇遇だな。
私のおっぱい揉みたいリストにも入ってる。

よし、決めた。今すぐ殺す。
では、今すぐ揉ませていただこう。
おい！やめろ！今は協力関係だって言っただろ！
つーか微妙にかみ合ってねえ！
それにしてもこの悪魔便利ね！
もういっそこれでエルバニアまで行けばいいじゃん！



帰れ!!

わしはもう廃業したんじゃー

さっさと帰れー

あたしが案内するのは魔導技師の工房まで。あと自分達でなんとかしな。

ちょっと待て--!! 約束と違うだろ!

廃業したってはっきり言ってたぞ! 今!

やれやれ…仕方ないねぇ…

あたしは盗賊。入れてくれないなら、勝手に入るまで。

代わりの魔導車でもかっぱらえばいい。

その手があったな。人々を救うためには仕方ないよな。

カチャ

カチャ

ちょ…ちょっと何やってるんですか! 犯罪はダメです!

そんなー…ユナが不良少女に…!

ブリ

ブリ

パパ…しっかり!

まさか侵入してくるとは！

この犯罪者どもめ!!

死ぬ覚悟はできとるんじゃろうな!!

ああ……！

わたくしも…ついに犯罪者に…

シオン!!

シオンなのか!!

ちょ…おい…ジジイ！

どこ触ってやがる！俺はシオンじゃねえ！

すまん…目が悪くてのう…じゃがたしかにシオンの気配が…

ではお前さんがシオンか!?
きゃあああああー
バッ
シオン!
きゃあああああー
バッ
シオーーーン!
ズザザザザ
おい…さっきから何してんだ。
変態ジジイ…
シオン殿のファンなのか?
ああ、そういや言い忘れてたね。
この男はリド・ブレイダン。
勇者シオンの祖父だ。
リド・ブレイダン
シオンの祖父

いやーすまんのう。

最近目が悪くってのう。

シオンだと言ってくれたらすぐに迎え入れたのに。

そこコップじゃねえから！

彼は世界を救うまで、剣として生きると決めてるそうでして。

それで無言なのか…まじめなシオンらしいのう…

目がちゃんと見えれば気づけたんじゃがのう…

それで…魔導車はすぐ直りそうなのか？

後輪と魔力経路を数か所…そして魔導機関もやられておるようじゃな。

前二つは交換が利くが、魔導機関が特別製のようでの。

修理するしかないのじゃよ。

体力も視力も衰えている今のわしでは、まともに修理しようとすると丸二日はかかるじゃろうな。

ヤァァァァァァ!!

二日って！
それじゃあ間に合わねえんだよ！
じゃあ、他の魔導車を貸してくれ！頼む！
エルバニアに一日で着くような魔導車はここにはない。
じゃからあれは特別製なんじゃ。
そんな…
パタン
リドさん。
魔導技術入門編、いま理解し終えました。
お手伝いするには、あとどれを読んでおくべきでしょうか。
!?
本当か…？この短時間に…
はい、勉強は得意ですので。
…
そうじゃの…
「魔導技術応用編上巻」、「魔導車の仕組みと構造」、「魔導機関工学」あたりは必要じゃのう。
わかりました。
わたくしに一時間半ほどお時間をください。

ぜんっぜん わっかんねえ。
スゲーな マルグリット。
あいつの頭 どうなってんだよ。

ユナ、ここは 素直に休んだ方が いい。
これからまた 激しい戦いが 待っている だろうからな。

休め つってもな…
なるほど… そういえば 話しそびれて いたな。
だが、今は話せない。
敵に情報を やるわけには いかないからな。
あ！
そういや その聖剣のこと 聞いてなかったな。
結局お前が 勇者ってどういうこと なんだよ。

へぇ…

そう言われると気になっちゃうねぇ。

教えてくれたらこっちも代わりに…

何？おっぱいか？おっぱいを揉ませてくれるのか？

それなら喜んで話そう。

そんぐらいで明かしちまう程度の情報なのかよ！

こっちも情報だよ。

敵の情報。

…！

いいだろう。ミリィ。

これは――

「人造聖剣」

世界有数の魔術師や魔導技師、鍛冶師が協力して作り上げた――

4本の新たな聖剣のうちの一つよ。

人造聖剣…!?
ユナ、聖剣がなぜ世界を救うために必要不可欠かわかるか？
そりゃ、地獄の門を封印できるのが聖剣だけだからだろ？
まさかその剣でも門が封印できるのか!?
いや、残念ながらこの人造聖剣は門の封印まではできない。
なんだよ…それじゃただの剣じゃねーかよ。
なるほど、そうか…
その聖剣…
魔王や四大魔公を殺れるんだね？
ああ、そういうことだ。
魔王に四天王…
四大魔公だ。

魔王直属の四体の悪魔達のことさ。

ヤツらの再生能力の前には、通常の攻撃は無力――多くの街が為すすべもなく滅ぼされたって話だ。

勇者シオンが、聖剣で殺すまではね。

ヤツらを殺れるっていうのなら、

確かに勇者を名乗る資格はある。

ちなみにあたしの情報ってのも四大魔公についてさ。

どういうことだ？

あんた達がこれから戦おうとしている魔術師達――

彼らは四大魔公の死体を所持している。

死にたくなけりゃあ、今すぐ諦めた方がいい。

数時間前
中央大陸のとある村

ネフフフフ…

やっぱりニンゲンは最高だよネェ。

夢と希望が詰まっている！

最高の娯楽だよねェ――

ネフさん…そろそろタベテイイか？

ドッ

ダメだよネェ。おこがましいよネェ。

そのニンゲンはキミみたいな空っぽのヤツの数千倍の価値はあるからネェ。

ドッ

サッ

さて、ディエゴ君からの頼まれ事…

トク

そろそろ向かうとしようかネェ。

トク

勇者を殺した男の「中身」はいったいどんなものか…

今から楽しみで仕方ないヨ。ネフフフフフ…

ネフ
上級悪魔

キャアアッ!!
た…助けてくれ!
ヒイッ!
ヒイイイッ!!
第43話 ▶ あの時と同じなら
ミリィ!
しっかりして!
ミリィ!!
どうしよう…
どうしよう…
ガッ
大丈夫ですか?
もう安心してください。
悪魔は僕が全部倒しますから。

四大魔公に…

千体の悪魔…

そういうこと。

ヤツらを無視しても、地獄の門には行ける。

そもそもお前は、人助けも世界の命運も本当はどうだっていいんだろう？

いつも通り戦わない選択をすればいい。

は！

こっちは勇者に勇者の仲間…

元四騎士だっているんだぜ。

敵がどれだけいようが楽勝だろ！

……

本気で言ってるのかい？

あんたの言うとおり俺には正義感のかけらもねぇ。

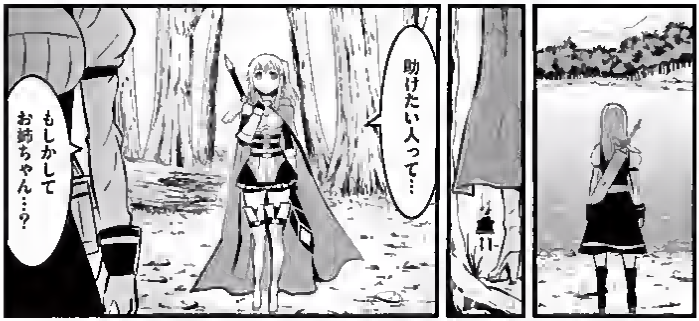
だけど…

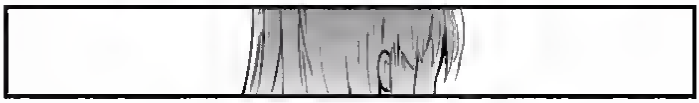
3年半前のあの時と同じなんだ。

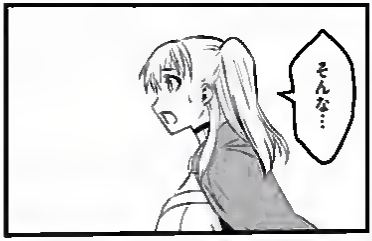
俺が助けたいのは――

あの時と同じヤツなんだ。

第43話 ▶ あの時と同じなら


助けたい人って…
もしかしてお姉ちゃん…？




そんな…

でもよ、お前らと再会できて助かったぜ！
正直俺達だけじゃどうしようもなかったしな！
それにスゲー武器まで携えてよ！

ああ、魔人化の魔術に感染してる。
俺がユナに入ることで暴走を抑えてるんだ。

しかし、なんでお前がそんなものを？

人造聖剣の完成後、それを持つにふさわしい新たな勇者が様々な方法で選ばれたの。

あたしは西の王国で開かれた剣闘大会で優勝した結果、勇者に選ばれた。

そういやお前、剣の扱いだけは誰よりもうまかったもんな。

結局一度も勝てなかったし

ねえ、

久しぶりに剣闘試合しない？

お兄ちゃんとの結婚をかけて。

はああ!? ちょっと待て！

またそんなこと言い出すとは予想してたけど…いくらなんでもタイミングってもんが…

オオオオ

ちょっと待て！
剣闘試合って言ったよな！
剣闘試合って！

思いっきり
飛び道具使ってんじゃ
ねーか!!

え？
剣から出たものだから、
ルール違反じゃ
ないでしょ？

ふざけんなァッ!!
結婚どころか
当たったらコレ死ぬ!!

じゃあ
あの世で
一緒になりましょ。

ひいいいいッ!!

クソッ!!

そっちが
その気なら…!!

悪いが気絶くらいはしてもらうぜッ!!

ぺちんっ

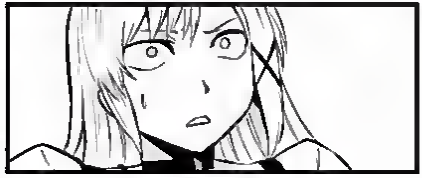
まずい…

もう魔力が…

ズッ

は…
はは…
お、俺の負けだ…
でも昔、百回先取って約束しただろ？
だからまだ…
何が楽勝よ…
何が助けるよ…

こんなんで…
こんなに弱っちいくせに…
どうやってお姉ちゃんを助けるって言うのよ！
ただ現実を見てないだけじゃん！



ありとあらゆる方法…
どんな卑怯な手だって使ってやる…
これは3年前と同じ状況――
あの時――お前とユナを救ったのは勇者だ。
だけどもう勇者は死んだんだ。
俺が助けないで誰が助けるんだよ。

……良かった。

お兄ちゃんなら
そう言ってくれると
思った。

は？

もしかして
お前わざと。

あたり前じゃん！
お姉ちゃんのピンチで
あたしは勇者！
助けに行かない
訳ないでしょ！

は……はは……
そりゃ……
そうだよな。

それに……

あたし
知ってる
よ。

剣闘大会で
優勝した時、
勇者シオンと
話す機会があったの。
あたしが3年前、
助けられた時の
お礼を言ったら、
勇者シオンは
こう言った。

お礼を言う相手は
僕じゃないですよ。

え？
どういうこと？

エルバニアの北に
大量の罠が仕掛けられて
いました。

僕が間に合ったのは、
誰かが悪魔達を
くい止めて
くれていたおかげなんです。

師匠さんと
お兄ちゃんの
会話でわかった…

その誰かって…

3年前、あたしとお姉ちゃんを助けたのは、

本当はお兄ちゃん達なんでしょ。

3年前と同じ状況なら、

今度もお姉ちゃんを助けるのはトウカお兄ちゃんだよ。

違ェよ。

あの時、俺ができたのは時間稼ぎだけ。

最後は悪魔にやられて気絶しちまうし…

おいトウカ！しっかりしろ！

街を救うんだろ！

思い出すだけでも情けなくなってくるぜ…

結局…

勇者が来なければどうしようもなかった。

ま、しかしよ…

今回は3年前の俺とは違え。

勇者の力がある。

頼もしい味方もいる。

だから…今度こそは俺の手で…

俺達の手でユナを救ってみせるさ。

うん！もちろんよ！

ガラにもねえことばかり言っちまったな。
ちょっとトイレ行ってくるわ。ずっと我慢してたからな。
うん、わかった。
ずっと…
我慢してた…
ずっと我慢してたんだ…
この時を…!!
フ…誰に何を言われようとユナを救う以外の選択肢は、もとより俺の中にはねーんだよ。
そんなことよりユナが戻る前に、俺には他に救わなきゃならねーヤツがいるんだ。

このフトモモちゃんをな!!!

やっぱいつ見ても、すけえぜ。

ユナのフトモモは!

美しさとエロさを兼ね備えた究極のフトモモ!

モミ

モミ

たが、ちゃんと鍛えられていることがわかるこの確かな弾力が俺を救ってくれる!

モミ

モミ

あれ？

なんで急に
こんなところに…？

いや…
だが
この場所…

見覚えが…

クソ！
今日は一人しか
殺れなかった！

ギャハハハ！
俺は4人！
お前もう傭兵稼業
やめちまえよ！

うるせえ！
儲け金山分けしろ！

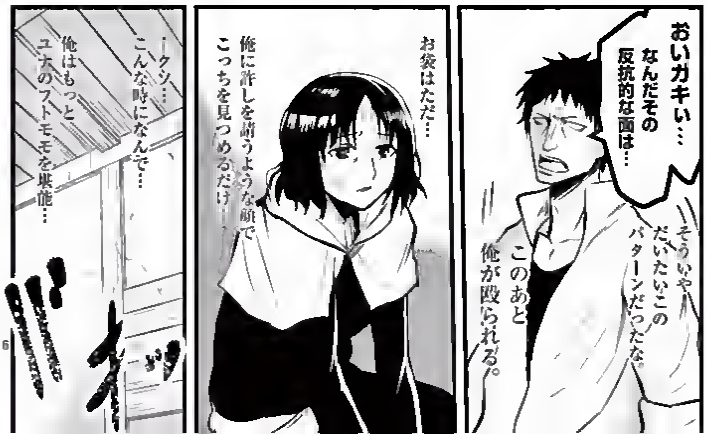
あの、隣で息子が
寝てますので
お静かに…

ああ!?
誰のおかげで
メシ食えてると
思ってんだ！

ギャハハハ！
うるさくて
ごめんねー！
息子くーん！

親父に…
おふくろ…

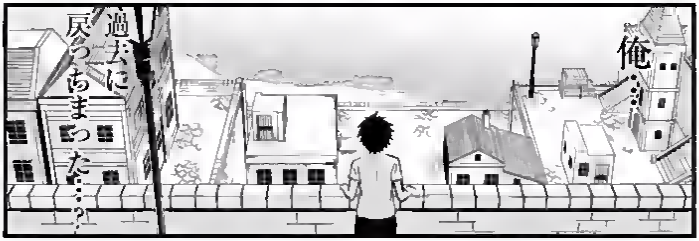
なんで急に
夢なんて…


おいガキぃ…
なんだその
反抗的な面は…
そういや
だいたいこの
パターンだったな。
このあと
俺が殴られる。
お袋はただ…
俺に許しを請うような顔で
こっちを見つめるだけ…
クソ…
こんな時になんで…
俺はもっと
ユナのストモモを異能…

——ユナ達の魔人化まで、残り「10年と18時間…？」

間違いねぇ…

第44話 ▶ タイムスリップ



きっかけはなんだ…

あの場所に
過去の世界へ通じる
門があったってことか？

地獄も俺達の世界と
地続きの世界ではなく
完全な異世界だと
聞いたことがある…

今も地獄の門は
同じような門が
他に存在しても
おかしくないか…

他の可能性は
うーん
最後はユナのフトモモを
揉んでいただけだしな…

いや…
待てよ…

ユナのフトモモを
あんなにちゃんと
揉んだのは初めて…

まさか…
それが原因…!?

なしかに身体ごと
吸い込まれそうな
[illegible]

ふるほど！
それなら今まで
ユナが頑なに
フトモモを触らせようと
しなかったことにも
説明がつく…！

今までユナは
たくさんの人を
過去に飛ばして
しまったんだ…！

ギュルルルルル

うわー！

……
ねぇな…
原因は
なんであれ
元に戻る方法を
探さねえと
ユナを
助けなきゃ
なんねえ
からな…
いや…
戻る必要あんのか…
ユナが魔人化の
魔術に感染するのは
10年後
このまま
10年…対策考えながら
待てばいいだけじゃねっ
…
うん！
そうしよう！
そうと決まれば
この奇跡のタイムスリップを
満喫させてもらうぜ！

あのお姉さんは、この街一番の美女として有名だった。

あのころは遠くから眺めるだけだったが、今なら…

あら、ごきげんよう。

ククク…おそれる必要はねえ！

今なら何やってもガキのいたずらとして許されるからな!!

ほーら、ニーソ履かされてるのにこんなにニコニコ笑顔してやがるぜ。

あら、ごきげんよう。

は？

ごきげんよう…

ごきげんよう…

ごきげんよう
じゃねーよ!!

そこはフツー
怒ったり
嫌がるもんだろ!
なんか逆に申し訳なく
なってくるんだけど!!

こんにちは。

どうしたんだい
坊や。

ザワ

ザワ

元気か! 坊主!

元気が坊主じゃ
ねーよ!

一番の美女が
こんな姿だってのに…

元気か!

どうしたってんだ…?

俺が忘れてるだけで、
この街じゃ
こんなの日常茶飯事
だったとか!

…

ス

ッ

嘘だろ…なんで無反応なんだよ…
不法侵入して壺割ったんだぞ！
ガキのいたずらだとしても、そこはさすがに怒るとこだろ…
あら、いらっしゃい。
今日はいい天気だねぇ。
チクショー…！
ダッ
いったい…！
ダダッ
ぜんたい…！
バッ

どうなってんだよ!!!

ドオン

やばいな…

街中のラーモモ好き放題できるってのは、ある意味大国…

だけど、ここまで反応がないんじゃ、大根どだいして変わらねーじゃねーか…!

キャッ

キャッ

原因はわからねえ…

たけど、こんな世界で孤独に生きていくなんて俺には無理だ…！

いや…

親父とお袋は中身も昔のまんまだった…

……その違いは…

今日だ…

親父が珍しく補員仲間の前で俺とおふくろをボコボコにした日

裏の森で初めてユナとなったんだ

俺の考えが正しければ…

どーしてそんなところにひとりでいるの？

ユナを待ってた…

え？

私を…

い、いや…親父に殴られたんだ！

だから帰りたくなくってよ！

やっぱりだ…

おかしいのは俺と関わりのなかった人物だけ…

ユナは無事だ…

ガリ

ガリ

ここがトウカのへや！

ユナは初対面なのに…
なぜか俺のことを
知っていたんだよな。
ガリ
ガリ
あの時は
ガキだったから
深く疑問には
思わなかったが…
父親は武術の名門の
家系で、
母親はこの街の
領主の娘。
その娘である
ユナのことは、
俺ですら知っていた
だが…
そんな大貴族の
娘がなんで俺のことを…
私がトウカと
ずっと一緒に
いてあげる！
理由はなんでもいいか
俺はユナの
この言葉のおかげで…

ずっと一緒にいてあげる…
なあ、
それは、10年後もそばでフトモモを拝ませてくれるってことか？
…
うん！
いいよ！
やはりな。さすが7歳のユナ…
チョロい…
そうだよ！出会いが…やり直せるな
今から約束を取り付けておけば、10年後のロングスカートの悲劇は防げる！
ロングスカートの悲劇
もちろん、ニーソを履いてだぜ？
うん…
よくわかんないけど…い…いいよ…

ククク…

そうだ！

10年かけて！

俺が理想のユナに育て上げるんだ――!!!

トウカ似合うかなこの二ーソ

そんなにスカート短くて恥ずかしくないのか？

だって…約束…だから…

じゃあ毎日フトモモ様ませて…

ぐ・う・う・う

おなか空いてたのね！

うちからゴハン取ってくるから、ここで待ってて！

タタタッ

クソ！もう少しだったのに…

そういや、あの時もユナがご飯取りに帰ったっけ…

いい加減にしなさいよ!!

さっきから、やりたい放題変な約束ばかり…!!

私の大事な思い出を汚さないでよ!!

このバカ!! ド変態!!

嘘だろ…

そんな…

その声は…

え…!? ちょっと待って!

ダメ…!

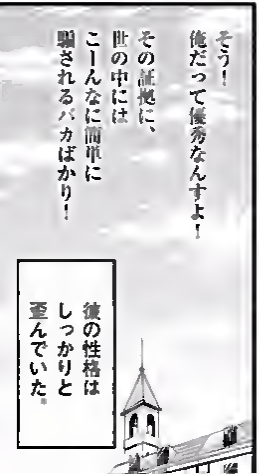
来ないで…!!

ユナ…!?
…
何…泣きそうな顔してんのよ…
まだ噛まれてから一日も経ってないのに…
本物の…
ユナなのか…?
そのつもりだけど…

——ユナ達の魔人化まで、残り「16時間」

おまけマンガ　コリンとネイガン

冒険者コリン・ブラッド――
彼は幼少のころから優秀すぎる親戚と比較されながら育った。



冒険者ギルド

中級悪魔討伐…一体につき50万クルーク！

へえ！悪くないじゃないっすか。

参加条件は…

二人以上のパーティーを組むこと…

…俺には関係ないっすね。

あいつ強そうじゃね。仲間に誘おうぜ。

やめとけって、あの男、悪い噂しか聞かないぜ？

あいつにハメられて大金失ったやつや死にかけたやつが何人もいるって話だ。

マジかよ!?

はは！

人力共とつるむのなんてこっちから願いドげっすよ

そして彼は孤立していた。

あーでも腹立つな。誰か騙して裏ざ晴らししなきゃ。

なあ、知ってるか？

あのネイガンっていう強面の冒険者…

本当はシャイで女と話したことすらないって噂だぜ。

ははは！冗談だろ!?

へえ。

あのー、

ネイガン・ボーンさんっすよね。

あそこにいる水着の女性・あんたと話したいそうっすよ。

ラブレターも預かって来たっす。

ボッ

スッ

ダイアン・ギズミン
冒険者
水着収集家

あはは！簡単に騙されすぎ！

あの手紙！俺が書いた偽物なのに。

あの女は凶悪な冒険者として有名なフシオスの女！

あーあ、キレてるキレてる。

ありゃ殺されちゃいますね。

あー面白かった。

お…おい…

無事だったんすね。
仕返しでもしに来たんすか？
クリ
あ…

ありがとう…
はあ!?
ありがとうって…
俺、あんたを騙したんすよ!!
お…
お前のおかげで…
一歩前に進めた気がする…
ず…
ずっと、
じょ…女性と話す勇気すら持てなかった…
とんでもないバカっすね…

な…何が…ありがとうだ…

バカの癖に俺を騙すつもりですか…

ちょっと…

なんでついて来てんすか…

お！恩返しさせてくれ…

仲間…欲しいんだろ…

はあぁ!? 欲しくないし！

お…

俺もずっとひとりだから…見ればわかる…

恩返しをさせてくれ…

…

は！

じゃあオトリとして利用させてもらいますかね！

そ…それでもかまわない。

ホントにバカっすね！

コリンとネイガン――二人はその後お互いを認め合う仲間同士になる。

勇者が死んだ！④

裏少年サンデーコミックス

ISBN978-4-09-127023-8

2016年2月17日初版第1刷発行

著者　スバルイチ
©Subaruichi 2016

発行者　佐上靖之

印刷所　図書印刷株式会社

Printed in Japan

「裏サンデー」2015年10月6日配信分～12月29日配信分掲載作品
連載担当／白水美咲
単行本編集責任／桃田正樹
単行本編集／白水美咲／宗像千亜（アイプロダクション）

発行所　（〒101-8001）東京都千代田区一ツ橋二の三の一
TEL 編集03(3230)5480
販売03(5281)3556
株式会社小学館

●乱本には十分注意しておりますが、印刷、製本など製造上の不備がございましたら「制作局コールセンター」（フリーダイヤル0120-336-082）にご連絡ください。
（電話受付は、土・日・祝休日を除く9:30～17:30）
●本書の一部または全部を無断で複製、転載、複写（コピー）、スキャン、デジタル化、上演、放送等をすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。代行業者等の第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

書　名　勇者が死んだ！　4
著者名　スパルイチ
発　行　株式会社小学館
〒101‐8001　東京都千代田区一ツ橋２‐３‐１

電子書籍制作会社　株式会社昭和ブライト